

あわらし文化財保存活用地域計画

令和 7 年（2025） 11 月

目 次

第1章 目的と位置づけ

第1節 背景と目的	1
第2節 体制と経緯	2
第3節 位置づけ	3
第4節 計画期間	8
第5節 市地域計画で指す「文化財」の範囲	9
第6章 地区区分	10

第2章 あわら市の概要

第1節 自然環境	11
(1) 位置	
(2) 地形	
(3) 地質	
(4) 気候	
(5) 生態系	
第2節 社会環境	16
(1) 人口	
(2) 交通	
(3) 産業	
(4) 文化財関連施設	
第3節 歴史的環境	20
(1) 縄文時代から弥生時代	
(2) 古墳時代から平安時代	
(3) 鎌倉時代から室町時代	
(4) 戦国時代から江戸時代	
(5) 明治時代から戦前	
(6) 戦後以降	

第3章 あわら市の文化財の概要

第1節 文化財の概要 26

(1) 指定文化財

(2) 未指定文化財

第2節 文化財の特徴 28

(1) 有形文化財

(2) 無形文化財

(3) 民俗文化財

(4) 記念物

(5) 埋蔵文化財

第4章 あわら市の歴史文化の特性 34

第5章 文化財の保存・活用に関する方針・事業

第1節 文化財の保存・活用の基本理念と方針 37

(1) 基本理念

(2) 基本方針

第2節 文化財の保存・活用の現況 38

(1) 調査・研究の現況

(2) 保存・修復の現況

(3) 公開・活用の現況

第3節 文化財の保存・活用の課題 49

(1) 調査・研究の課題

(2) 保存・継承の課題

(3) 公開・活用の課題

第4節 基本方針に関する方針と保存・活用の事業 50

(1) 基本方針1 調査・研究に対する方針と事業

(2) 基本方針2 保存・継承に対する方針と事業

(3) 基本方針3 公開・活用に対する方針と事業

第6章 文化財の総合的な保存・活用の取り組み

第1節 関連文化財群の設定の考え方	55
第2節 関連文化財群と構成文化財	57
第3節 関連文化財群に関する保存・活用の事業	69

第7章 文化財の防災・防犯

第1節 防災・防犯の現況と課題	74
第2節 防災・防犯及び災害時の方針	75
(1) 各種災害に対する方針	
(2) 防災・防犯に対する方針	
(3) 被災後の方針	
第3節 防災・防犯に対する事業	76
第4節 実施体制	77

第8章 文化財の保存・活用の推進体制

第1節 推進体制	78
第2節 計画の進行管理	82

資料編

1	あわらし文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱	1
2	あわらし文化財保存活用地域計画策定協議会・あわらし文化財保護委員会名簿	2
3	地域計画作成の経緯	3
4	指定文化財一覧	5
5	未指定文化財一覧	8
6	神社一覧	25
7	寺院一覧	28

第1章 目的と位置づけ

第1節 背景と目的

福井県の最北部に位置するあわら市は、平成16年（2004）3月1日に、旧坂井郡芦原町と金津町の合併により誕生しました。

あわら市は東に刈安山、北に加越台地、北西に北潟湖や日本海、南に坂井平野と、豊かな自然があり、多様な歴史文化を育んできました。市内には、縄文時代の貴重なアクセサリーを含む福井県桑野遺跡出土品（国指定、金津地区）や、真宗王国北陸の始まりの地吉崎御坊跡（国指定、吉崎地区）など、数多くの文化財が保存されています。



写真1-1 吉崎御坊跡遠景
（国指定史跡、吉崎地区）

しかしながら、あわら市は、少子高齢化や過疎化の進行に伴う人口減少といった状況が認められ、文化財の保存・継承に深刻な影響を及ぼしています。さらに、受け継いできた歴史文化への理解及び関心の低下により、文化財の担い手が減少し、き損・滅失なども起こっています。これらに対処するために新たな人材の育成をはじめとした文化財の保存・活用への対策は急務の課題です。

そこで、あわら市は、文化庁の定める「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」（令和7年（2025）3月改定）に基づき、文化財の保存・活用に関するマスタープラン及びアクションプランとなる「あわら市文化財保存活用地域計画」（以下、「市地域計画」という）を作成しました。市地域計画では、市内に所在する多様な文化財を幅広く捉え、文化財の一体的な保存・活用の事業の方向性を明確にし、歴史文化を活かしたまちづくりを推進する基本指針及び事業を示します。

第2節 体制と経緯

市地域計画は、あわら市の歴史文化の特性を的確に捉えるとともに、所在する様々な分野の文化財の保存・活用について市民の理解と協力が得られる内容とする必要があります。このため「あわら市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱」を定め、本要綱に基づき、学識経験者、市民、文化財所有者や商工会・観光関係団体、行政関係者から構成する「あわら市文化財保存活用地域計画策定協議会」（以下、「市策定協議会」という）を設置し、市教育委員会文化学習課あわら市郷土歴史資料館（以下、「市郷土歴史資料館」という）を事務局としました。市策定協議会は令和5年（2023）度から令和7年（2025）度の3か年で計5回開催し、協議と意見聴取を行いました。

市地域計画の作成にあたり、市民の文化財保存・活用に関する意識を把握するとともに、地域の文化財の掘り起こしを行うために、市内全区にアンケートを令和5年（2023）9月15日から10月31日に実施しました。また、各地区の公民館で開催される公民館祭等に出展し、地元の文化財を展示することで文化財に対する意識づけを行いました。合わせて未発見の文化財の掘り起こしを実施しました。

これらの取り組みを通して作成した、市地域計画の素案について令和7年（2025）6月16日から6月30日までパブリックコメントを実施し、3件の意見が寄せられました。

さらに、文化財保護に関する専門的な分野については、あわら市文化財保護委員会に令和7年（2025）7月に意見聴取を実施しました。

以上で集められた意見などを踏まえて、「市地域計画」として取りまとめました。



写真1-2 第1回市策定協議会の様子



写真1-3 ワークショップの様子
（令和5（2023）年10月 細呂木公民館）

第3節 位置づけ

市地域計画は、平成31年（2019）4月に改正施行された文化財保護法第183条の3に基づく法定計画です。これは福井県が策定した「福井県文化財保存活用大綱」（令和2年（2020）3月策定）を勘案しています。更にあわら市の最上位計画である「あわら市総合振興計画」に掲げたあわら市の将来像とまちづくりの目標に基づき、文化財の保存・活用の基本的な考え方を示します。また、全庁で文化財の保存・活用の取り組みが進められるように、あわら市の関連計画や関係施策との連携・整合性を考慮し、各施策が文化財の保存・活用に繋がるよう作成しました。

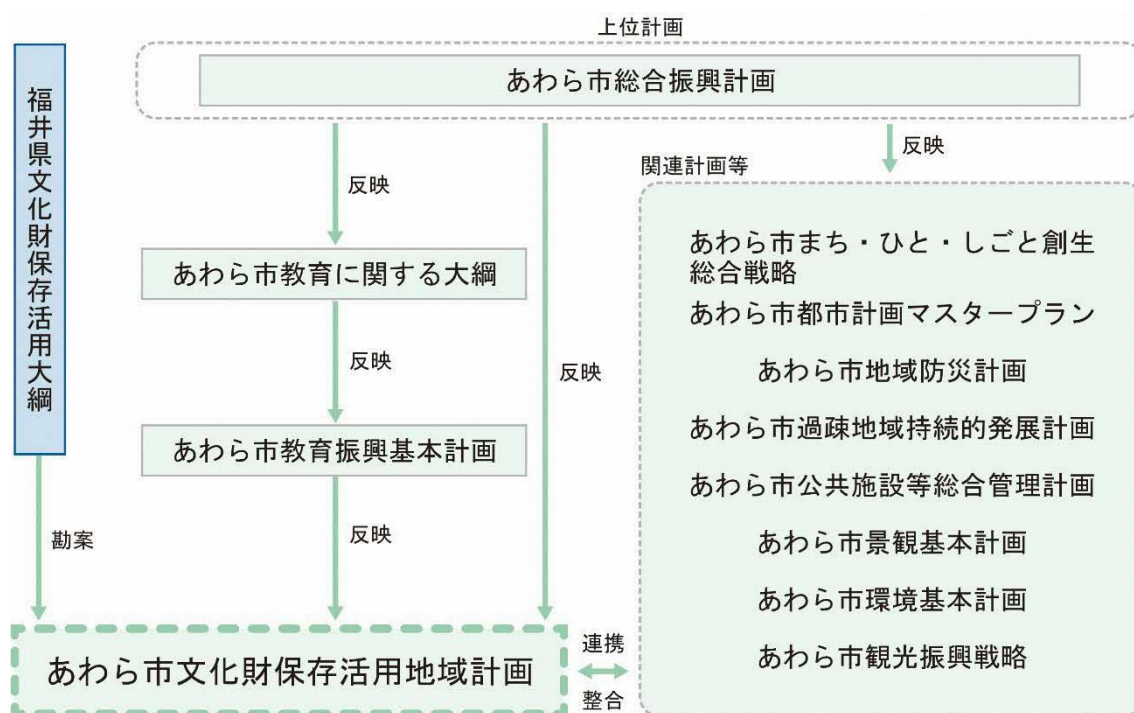


図1-1 市地域計画の位置づけ

主な上位計画・関連計画の概要は次のとおりです。

なお、各計画の内容のうち、市地域計画に係る項目のみを抜粋して掲載しています。

＜上位計画＞

あわら市総合振興計画（令和３年（2021）度から令和７年（2025）度）

【基本理念】暮らしやすくて 幸せを実感できるまち

表 1-1 あわら市総合振興計画の概要

目標等【後期基本計画のテーマ】誰もが 夢や希望をもち 元気に笑顔で暮らす
活力あふれるまちへ

【基本目標】活力人口 10 万人 あわら市の創造

分野	基本施策	施策の方針
(action1) 環境	環境の保全	自然環境の保全・再生
	地域防災の強化	防災意識の高揚
	安心なまちづくりの推進	防犯活動の充実
(action3) 教育	学校教育の充実	ふるさと教育の充実
	生涯学習の推進	生涯学習の充実
	文化と芸術の振興	文化財の保護と継承
		文化の振興
		芸術の振興
(action4) 都市	機能的なまちの整備と景観への配慮	美しい景観と快適な暮らしの実現
	新幹線開業に向けたまちづくり	新幹線開業後のまちづくり
(action5) 経済産業	観光の振興	地域主体の観光まちづくりの推進
		地域資源、観光施設の維持管理
(action6) 地域社会	市民主役のまちづくり	市民と市との共働のまちづくり

＜関連計画＞

あわら市教育に関する大綱（第２次）（令和３年（2021）策定）

第２次 あわら市教育振興基本計画（前期計画）（令和４年（2022）策定）

【基本理念】～ふるさと愛の醸成と自らの可能性に挑戦する教育の推進～

ふるさとあわらを愛し、一人一人が夢や希望を持ち個性が輝く教育

表 1-2 教育関連計画の概要

あわら市教育に関する大綱(第２次)		第２次 あわら市教育振興基本計画（前期計画）
基本方針	施策の方針	振興計画の内容
基本方針 2	ふるさとを愛する心の育成	取組 1 ① 郷土歴史資料館出前授業の実施 ② 地域と進める体験推進事業の実施 ③ ふるさとの魅力発信推進事業の実施 ④ 副読本「魯迅と藤野巖九郎」の全児童配布 ⑤ 思い出づくり体験入浴の実施
		取組 2 ① 社会科副読本「わたしたちのあわら市」の活用
基本方針 4	地域の教育力の向上	取組 1 ① 地域行事への積極的な参加の推進 ② 公民館活動への積極的な参画
		取組 2 ① 子ども会活動の推進 ② 地域の有識者による歴史・文化の伝承
基本方針 5	地域人材の発掘・育成	取組 1 ① 地域資源を活用した学習機会の提供 ② 文化施設の相互連携による魅力的な企画展や講座の展開
		取組 2 ① 地域交流による幅広い学習内容の充実 ② まちづくり団体との連携による地域住民の相互学習の推進
基本方針 6	芸術、文化の振興	取組 1 ① 金津創作の森美術館の幅広い世代に親しまれる企画の展開 ② 新たな魅力の創造
		取組 2 ① 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実 ② 文化団体への支援と文化活動継承者の育成 ③ あわら市の独自性を生かした文化活動の育成
		取組 1 ① 各種企画の充実 ② 出前講座などの充実
	文化財の保護・活用の推進	取組 2 ① 文化財保存活用地域計画の策定および推進 ② DX の推進

表 1-3 関連計画の概要

名称	基本的方向、目標等	方針、施策等
第2期あわらしまち・ひと・しごと創生総合戦略	基本目標④ ひとが集う、安心して暮らすことができる 魅力的な地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ活性化の推進 ・まちづくり活動への支援 ・ふるさと教育の充実 ・魅力等の発信強化
あわらし都市計画マスタープラン	【都市の将来像】多彩な自然と温泉情緒が誘う 生活感動都市	
	まちづくりの基本戦略1 自然や歴史を舞台に 出会いと美しい景観を創出するまちづくり（森林、海岸、湖沼、河川、丘陵地）	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化を学び伝える場をつくる ・芸術を発信し、学ぶ場をつくる
	まちづくりの基本戦略2 地域資源の連携による 活力とにぎわいのあるまちづくり（農用地、商業地、工業地）	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい環境と景観を守る
	まちづくりの基本戦略4 魅力的な空間と回遊性の創出による 歩いて楽しい温泉街づくり（芦原温泉街）	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて楽しい温泉街を創出する ・市民が日常的に愉しめる空間をつくる ・あわらし温泉湯のまち広場を交流拠点にする
	まちづくりの個別方針	
	4) 景観づくりの方針	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な自然風景を守り、育み、生かす ・歴史的な景観を守り、伝え、新たな文化を育む ・まちの個性を創造する景観づくり ・住む人々と生活する風景で美しく愛着のあるまちをつくる
	8) 防災のまちづくりの方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に備えたまちづくり ・火災に強いまちづくり ・防災拠点・避難路の整備と充実 ・自主防災の環境整備
あわらし地域防災計画	災害予防計画	
	第24節 雪害予防計画	庭園樹木等の文化財の倒壊、破損防止のための早期除雪
	第27節 文化財災害予防計画	文化財の災害予防対策
	災害応急対策計画	
	第1節 緊急活動体制計画	文化財の被害調査
	第5節 情報及び被害状況報告計画	文教施設被害報告
	第19節 文教対策計画	文化財保護対策
あわらし過疎地域持続的発展計画	【あわらし総合振興計画の基本理念】暮らしやすくて 幸せを実感できるまち	
	教育 学びの心を育て、豊かな文化があふれるまち	9 教育の振興
		11 地域文化の振興
あわらし公共施設等総合管理計画	2 社会教育系施設	郷土歴史資料館、金津創作の森の運営費の削減検討、新たな財源の確保検討、郷土歴史資料館の運営費確保
あわらし景観基本計画	【基本理念】次世代へ伝える 春夏秋冬の風物詩が物語る景観づくり	
	基本目標1 多彩な自然風景を守り、育み、生かす	<ul style="list-style-type: none"> ①多面的な眺望を大切にする景観形成 ②魅力景観をつなげる景観軸の形成 ③生き物の生息環境に配慮した景観形成 ④農林漁業活動に融合する景観形成

名称	基本的方向、目標等	方針、施策等
あわらし景観基本計画	基本目標 2 歴史的な景観を守り、伝え、新たな文化を育む	<p>●基本的な考え方</p> <p>①寺社や文化施設を核にした歴史を伝える景観拠点づくり</p> <p>②歴史文化を生かした街並み景観形成</p> <p>③歴史文化資源を結ぶストーリー性のある景観ネットワークづくり</p> <p>④新しい文化を創造する景観拠点づくり</p>
	自然景観	<ul style="list-style-type: none"> ・森林景観 ・海浜景観 ・湖沼景観 ・河川景観 ・丘陵地景観 ・田園景観
	歴史文化景観	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化景観
第2次あわらし環境基本計画	【将来像】めざせ！自立・分散型のゼロカーボンシティ あわらし	
	目標 3 地域資源を保全・活用する	<p>施策 3・1 文化資源を保全・活用します</p> <p>施策 3・2 自然資源を保全・活用します</p>
	来たい、住みたい、おすすめしたい、世界に愛されるまち“AWARA”	
第2期あわらし観光振興戦略	01 魅力・消費につなげる	<p>地域の魅力向上</p> <p>施策 1 金津まちなかエリアの賑わいづくり</p> <p>施策 2 湯のまちエリアのさらなる活性化</p> <p>施策 3 北潟・波松エリアを中心とした周遊エリアの形成</p> <p>施策 4 吉崎・細呂木エリアの歴史と芸術を感じる体験の提供</p> <p>施策 6 伝統文化の継承と活性化の検討</p>
		<p>「稼げる」観光地化</p> <p>施策 3 農業と観光業の連携強化</p> <p>施策 4 旅の目的となる体験コンテンツの充実</p> <p>施策 5 ふるさと納税を活用したマーケティング</p>
	02 未来につなげる	<p>サステナブルツーリズムの推進</p> <p>施策 1 エコツーリズムの推進</p> <p>施策 3 教育旅行の誘致</p>
		<p>地域主体の観光まちづくり</p> <p>施策 1 地域を牽引するリーダーとプレイヤーの発掘と支援</p> <p>施策 2 マネジメント組織の設立と連携強化</p>
	03 世界につなげる	<p>インバウンド誘客の推進</p> <p>施策 1 インバウンドに刺さる観光プログラムの造成</p> <p>施策 2 外国人向けの発信力強化</p> <p>施策 3 受け入れ体制の構築</p>
		<p>観光 DX の推進</p> <p>施策 1 ビッグデータを活用したマーケティング</p> <p>施策 2 データ分析に基づいた観光プログラムの造成</p>
		<p>プロモーションの実施</p> <p>施策 1 SNS・メディアの情報発信強化</p> <p>施策 2 インフルエンサーとの連携</p> <p>施策 3 人と人がつなげる“おすすめ”の連鎖</p> <p>施策 4 広域での宣伝活動の展開</p>

名称	基本的方向、目標等	方針、施策等
第2期あわら市観光振興戦略	04 みんなの笑顔につなげる	ウェルネスツーリズムの推進 施策2 自然や健康に特化したウェルネスツーリズムの推進 施策3 福井県広域ウェルネス推進協議会による観光プログラムの造成と販売
		周辺市町との連携強化 施策1 各広域観光協議会への積極的参画 施策2 広域的連携による受入体制強化
		シビックプライドの醸成 施策1 教育の場における地域への愛着醸成 施策2 教育機関との協力体制の強化 施策3 観光に触れる機会の提供
		おもてなしの向上 施策1 持続可能なガイド体制の構築 施策2 観光事業者のスキルアップ 施策3 観光事業関係者の担い手確保

第4節 計画期間

計画期間はあわら市総合振興計画との整合を図り令和8年(2026)度から令和17年(2035)度の10年間とします。計画期間のうち令和8年(2026)度から令和12年(2030)度を前期、令和13年(2031)度から令和17年(2035)度を後期とし、計画に記載した事業などの取り組みを適切に進捗管理し、社会情勢や文化財行政の状況を踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

なお、計画の見直しにより、以下の変更をする場合は、文化庁長官による変更の認定を受けます。

- ・計画期間の変更
- ・あわら市内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・市地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

また、それ以外の軽微な変更を行う場合は、変更の内容について福井県及び文化庁に情報提供します。

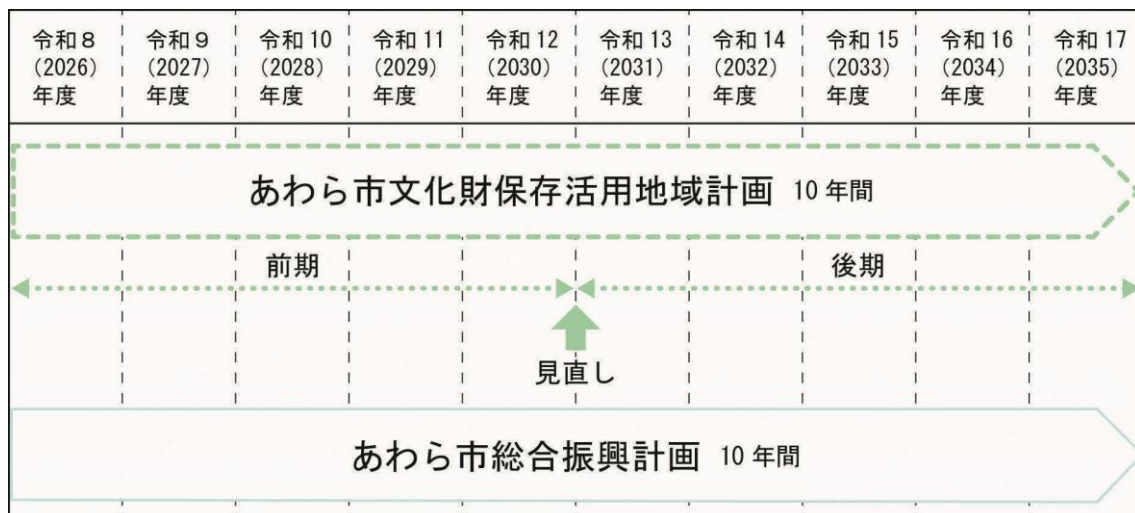


図1-2 市地域計画の期間

第5節 市地域計画で指す「文化財」の範囲

文化財保護法第2条の1から5で定義する6類型（有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群）の文化財に加え、埋蔵文化財、文化財保存技術のほか、未指定文化財も含めて広く「文化財」として定義します。

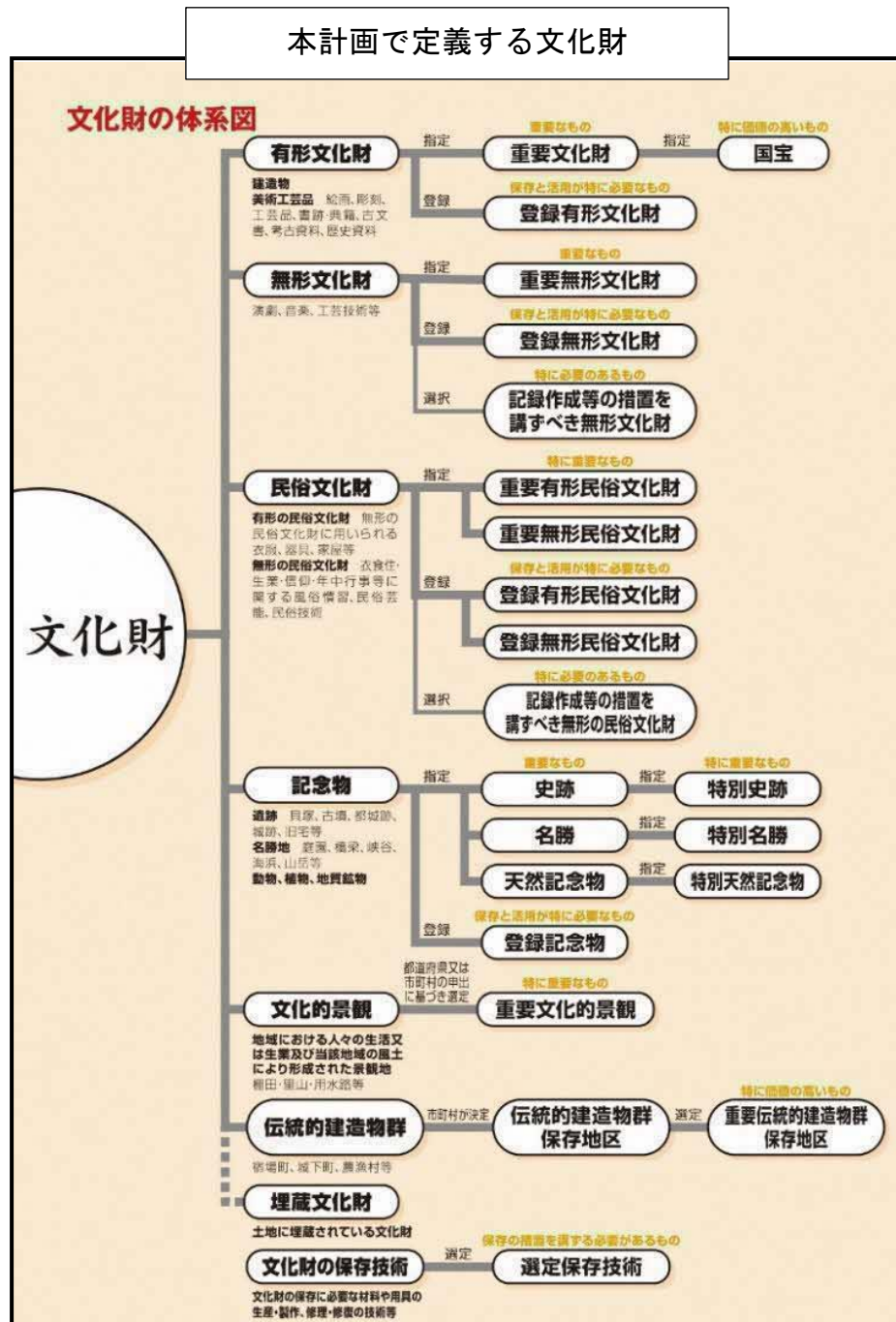


図1-3 市地域計画における「文化財」の定義

第6節 地区区分

あわら市は、温泉地区・山方里方地区・本荘地区・新郷地区・北潟地区・波松地区・金津地区・伊井地区・坪江地区・劔岳地区・細呂木地区・吉崎地区の12地区で構成され、これらは明治時代の旧村が基になっています。市地域計画における地区区分は上記12地区に準じます。



図1-4 あわら市の地区区分（国土数値情報（行政区域データ）、基盤地図情報（基本項目、数値標高モデル）を使用して作成）

第2章 あわら市の概要

第1節 自然環境

(1) 位置

あわら市は、福井県の最北端に位置し、南側及び西側は坂井市、北側と東側は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に面しています。市域はおよそ東西 14 k m、南北 14 k m で面積は 116.99 k m²です。



図 2-1 あわら市の位置図(国土数値情報(行政区域データ)を加工して作成)

(2) 地形

あわら市北西部は日本海に面し、越前加賀海岸国定公園に指定された波松海岸に白砂青松の景観をつくり出しています。その内陸側に周囲 17.5 k m、面積 2.25 k m²の北潟湖があります。

東部は加越山地の一部を構成する刈安山・劔ヶ岳などからなる標高 500 から 600mの山岳地帯で、山頂からは坂井平野を一望することができます。また、加越山地には越前と加賀を結ぶ風谷峠があり、国境の間道として使われていました。

北部には、標高 30m前後の加越台地が形成され、畑地・果樹園・芝地などに

利用されています。

南部には福井県随一の穀倉地帯である広大な坂井平野があり、田園が広がっています。

中央部から西部に、宿場町としての歴史がある金津市街地と、芦原温泉のある芦原市街地があります。

また、坂井市丸岡町の丈^{たけ}競^{くら}山^{べやま}を水源とする竹田川は、途中で権世川・熊坂川・宮谷川を合流し、金津市街地を貫くように東西に流れています。北部には北潟湖に注ぐ観音川があり、古くから田畑を潤してきました。

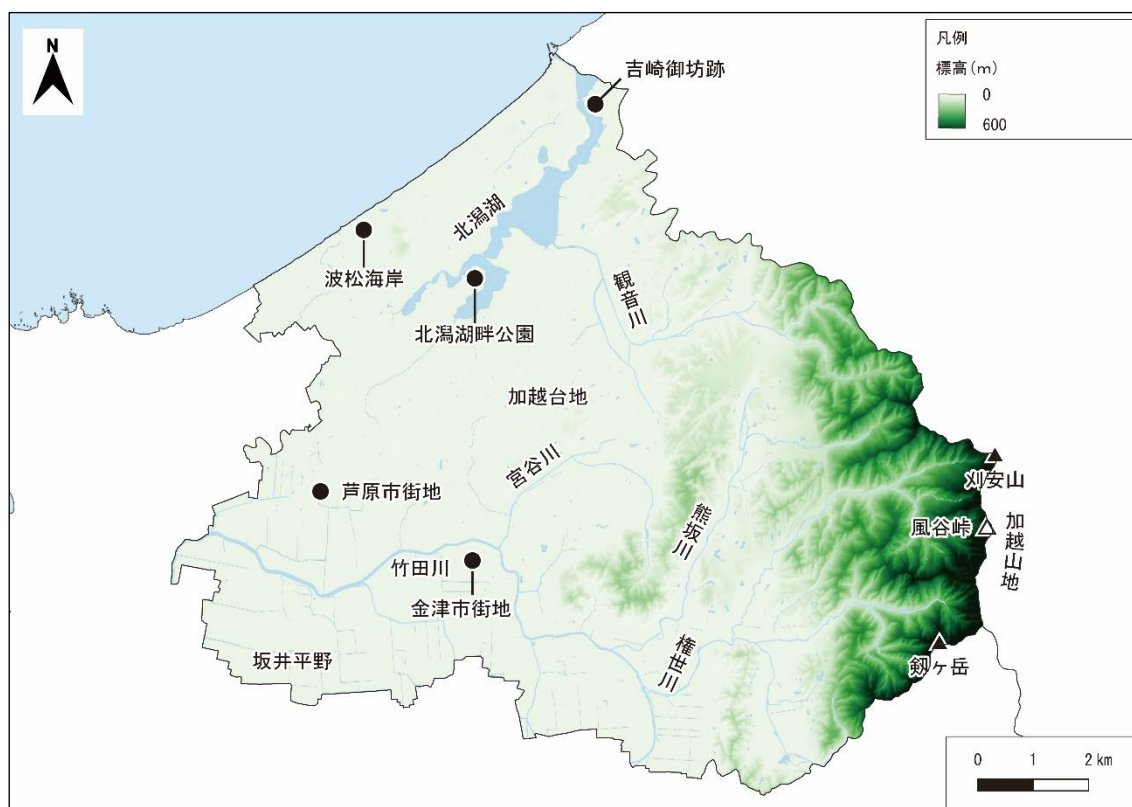


図 2-2 あわら市の地形（国土数値情報（河川、行政区域データ）、基盤地図情報（数値標高モデルデータ）を加工して作成）

（３）地質

あわら市の東部の加越山地は、2303 万年前から 533 万年前の凝灰岩質岩石で形成され、北西部の海岸近くは砂丘砂が見られます。

北部の加越台地は、海岸平地にみられる砂がち堆積物で、約 1 万年前に形成され、1 万年前はこの周囲が海だったことがわかります。

北東部は砂岩・泥岩、最北部は 2303 万年前から 533 万年前の泥岩、南部の坂井平野は、弥生時代以降に竹田川や観音川の影響で堆積した泥・砂・礫で形成されています。

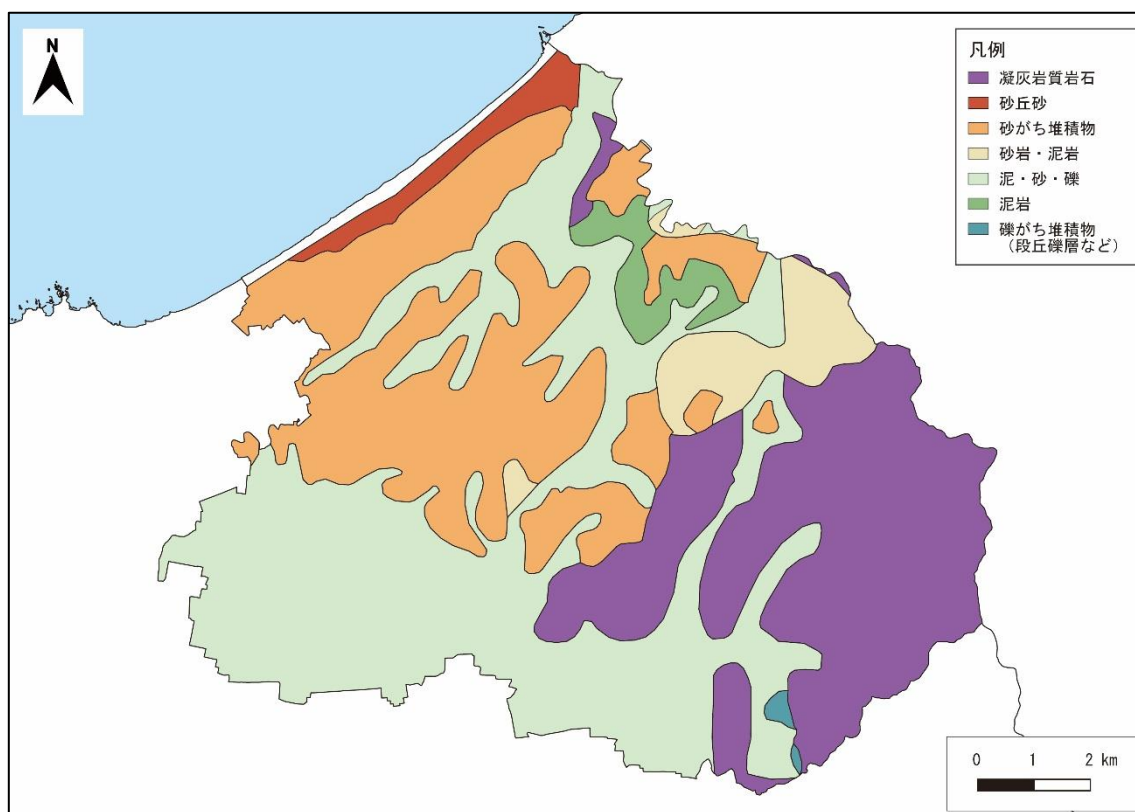


図 2-3 あわら市の表層地質図（国土数値情報（行政区域データ、20 万分の 1 土地分類基本調査）を加工して作成）

（４）気候

あわら市は、日本海式気候に属し、春から夏は晴れる日が多く、冬季は曇りや雪が多くなります。降水量は梅雨時期の 7 月と、雪が降り始める 12 月に多いです。

平成 27 年（2015）から令和 6 年（2024）までの年間降水量の平均値は 174.7 mm、平均気温は 15.1℃です。月別の推移は、降水量は 2 月が 123.8mm で最少、12 月が 268.9mm で最多です。また、平均気温は、8 月が 27.2℃で最も高く、1 月が 4.1℃と最も低いです。

積雪量は山間地域において多く、海岸域は少ない傾向です。一番積雪量が多かったのは昭和 38 年（1963）の、いわゆる三八豪雪の時で、213cm 積もりました。

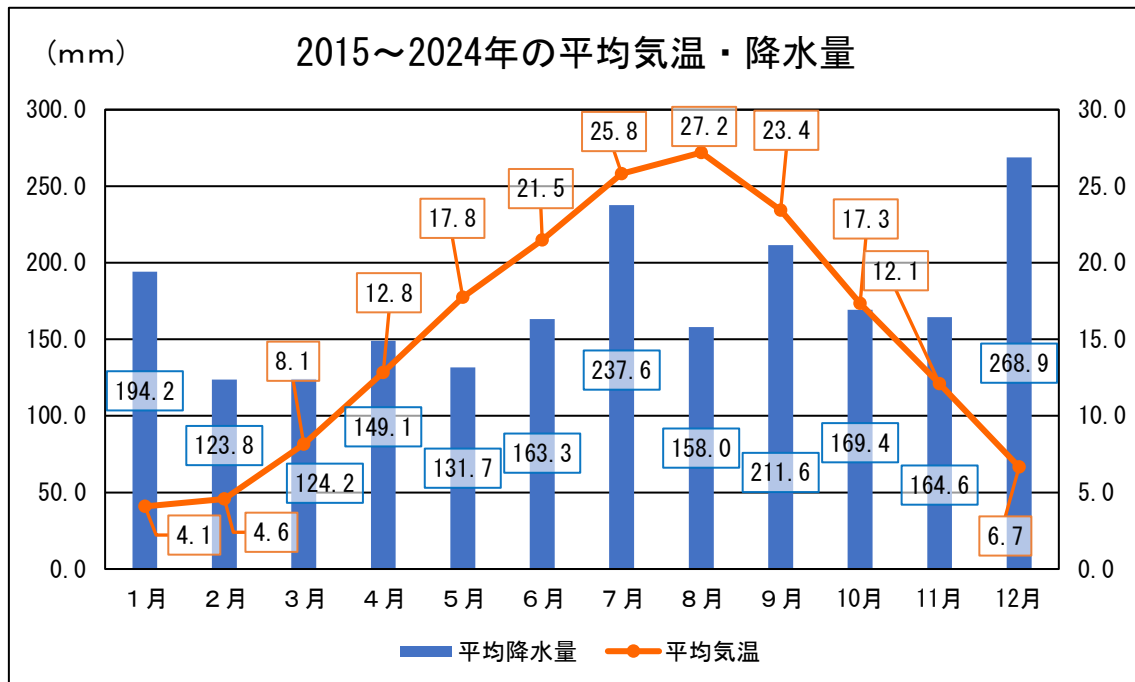


図 2-4 あわら市の平均気温・降水量（気象庁の三国で平成 27 年（2015）から令和 6 年（2024）までのデータ（気象庁ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>））を加工して作成）

（5）生態系

動物は、『福井県のすぐれた自然（動物編）』（福井県 1999）が掲げる「鳥獣の重要な生息地」の 15 か所のうち、あわら市に北潟湖、坂井平野、刈安山、旧坂井郡の丘陵地の 4 か所があります。そこで特別天然記念物のカモシカやコウノトリ、天然記念物で冬になると越冬のため坂井平野に飛来してくるヒシクイとマガンが確認されています。

植物は、『福井県のすぐれた自然（植物編）』（福井県 1999）が掲げる、「すぐれた植生」の 104 か所のうち、あわら市には劔ヶ岳のブナ林、牛ノ谷の白山神社のスタジイ林、沢の春日神社のスタジイ林、高塚の春日神社のスタジイ林の 4 か所があります。

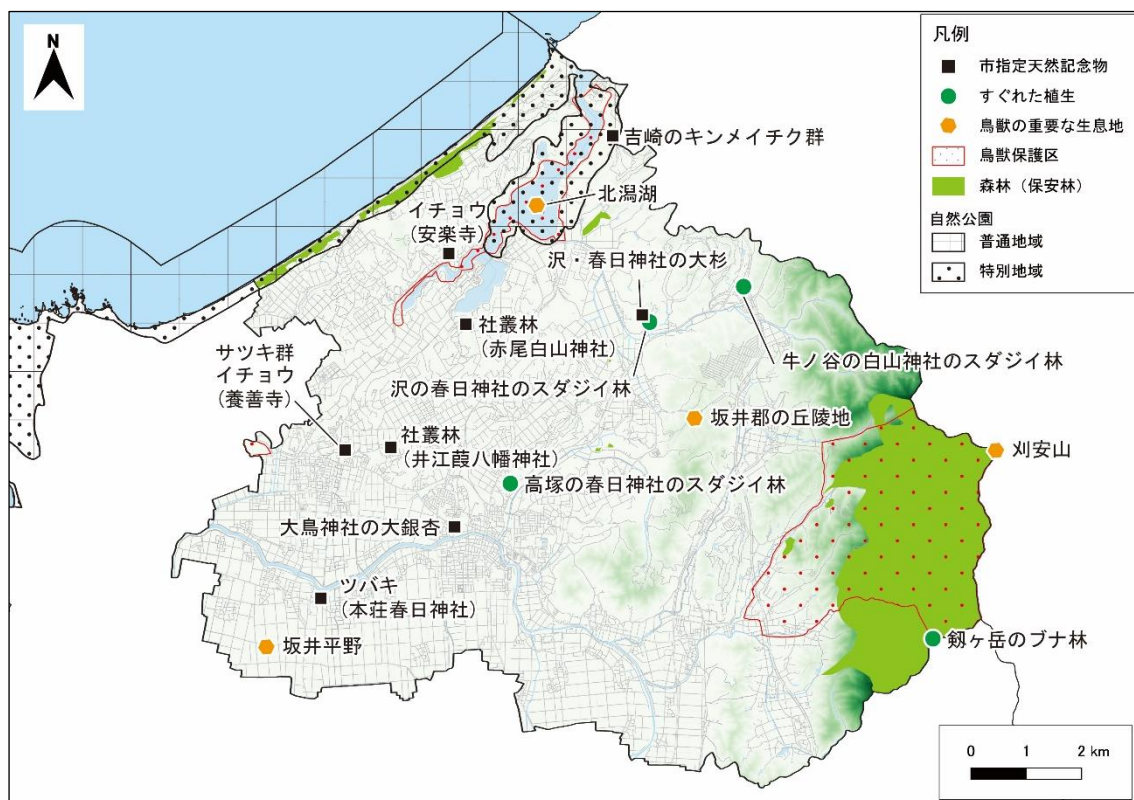


図 2-5 鳥獣の重要な生息地及びすぐれた自然及び指定天然記念物の分布（国土数値情報（鳥獣保護区、自然公園地域、森林地域、行政区域データ）、基盤地図情報（数値標高モデルデータ）を加工して作成）

第2節 社会環境

(1) 人口

あわら市の人口は令和7年(2025)8月時点で26,147人です。図2-6をみると、平成7年(1995)の32,431人がピークで、以降徐々に減少しており、令和42年(2060)には約14,800人になると見込まれています。

年齢構成比率は、平成7年(1995)と令和7年(2025)を比較すると、年少人口(0から14歳)5,397人が2,643人と51.0%の減少、生産年齢人口(15から64歳)20,919人が13,898人と33.6%の減少、老年人口(65歳以上)6,115人が9,541人と56%の増加で、人口減少と高齢化が進行していくものと予測されます。

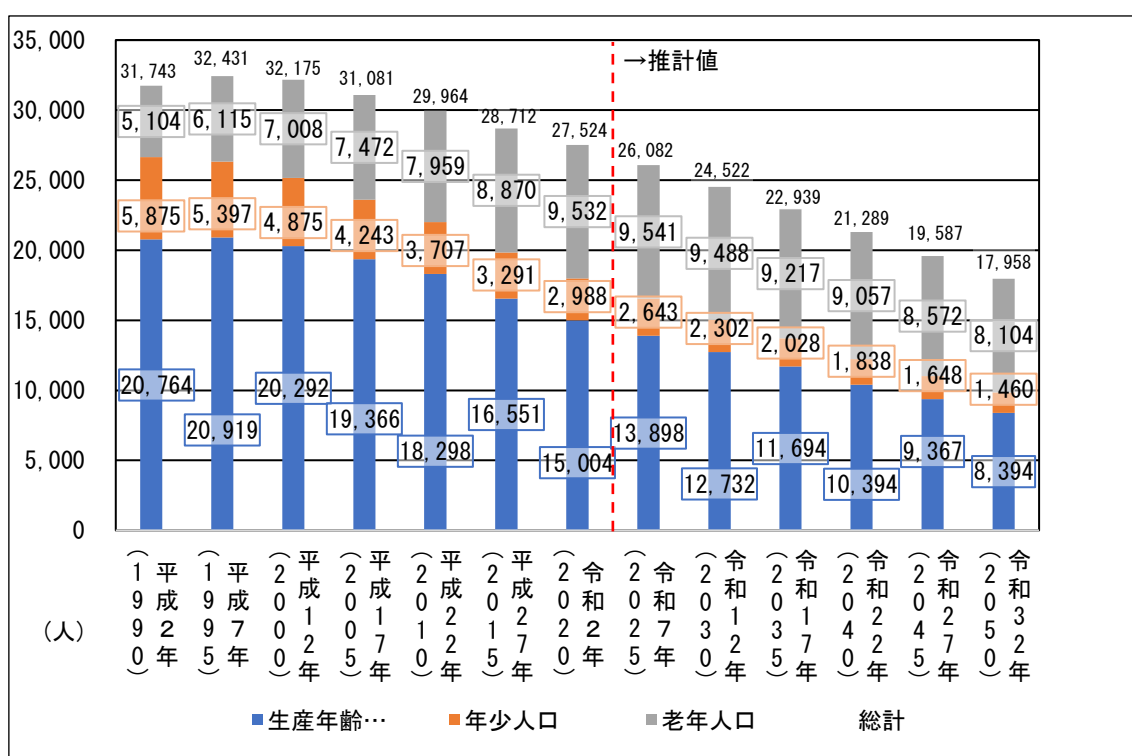


図2-6 人口推移 (国勢調査 (1990 年から 2020 年)、福井県統計年鑑 (2020 年)、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(令和5年(2023)推計)を加工して作成)

(2) 交通

鉄道は、北陸新幹線が令和 6 年（2024）3 月 16 日に開業し、芦原温泉駅に停車します。その他、新幹線延伸に伴い J R より分離した第三セクターであるハピラインふくと、えちぜん鉄道三国芦原線があります。

また道路は北陸自動車道、国道 8 号、国道 305 号の主要交通路があわら市内を南北に貫いています。その他、坂井市と結ぶ路線バスが 2 系統、市内を運行する乗り合いタクシーがあります。令和 5 年（2023）4 月 22 日に、あわら市初の道の駅として「蓮如の里あわら」がオープンしました。

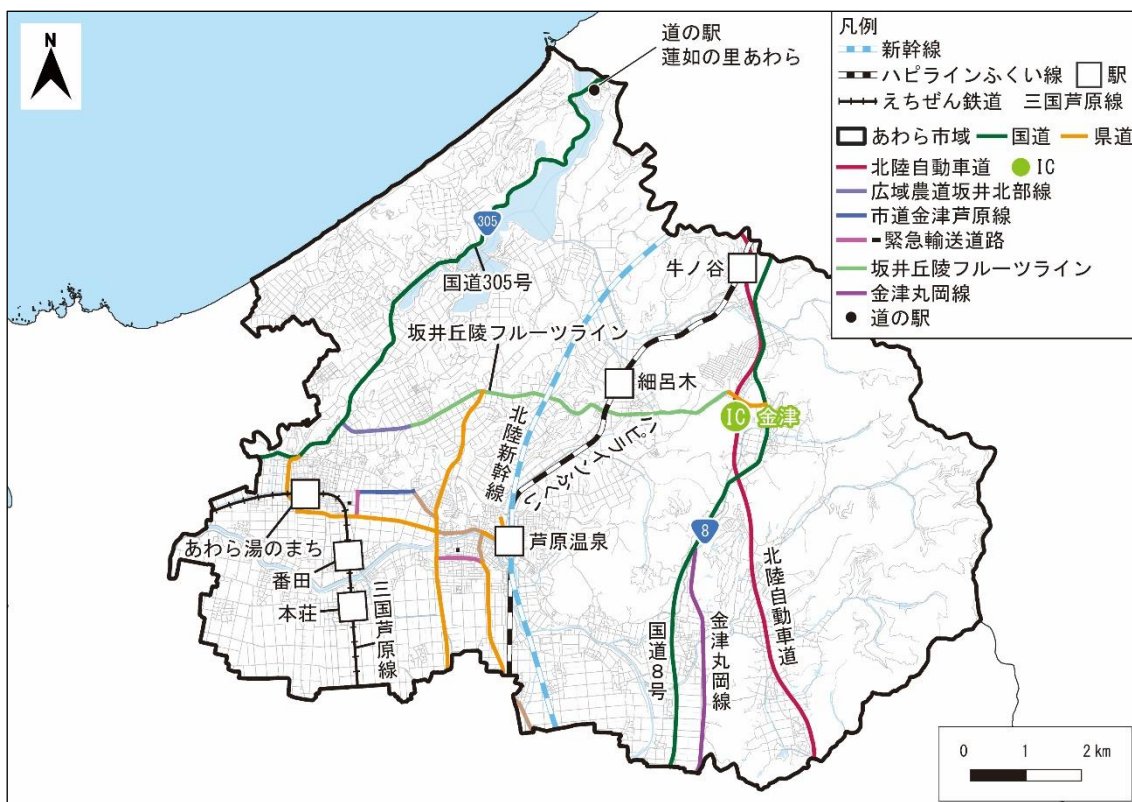


図 2-7 あわら市の主要幹線交通網（国土数値情報（行政区域、高速道路時系列、緊急輸送道路、鉄道データ）、基盤地図情報（基本項目データ）を加工して作成）

(3) 産業

昭和 35 年 (1960) 以降の産業別就業者数の推移を見ると、昭和 35 年 (1960) 当初に 8,321 人を占めていた第 1 次産業就業者が徐々に減少し、平成 27 年 (2015) は 923 人でした。代わりに第 2 次産業、第 3 次産業就業者が大きく増加しています。特に第 3 次産業の就業者は、昭和 35 年 (1960) の 5,040 人から、平成 27 年 (2015) は 9,345 人と 1.8 倍になりました。第 3 次産業では観光業に関わる人々が多く、あわら市にとって重要な産業の一つです。

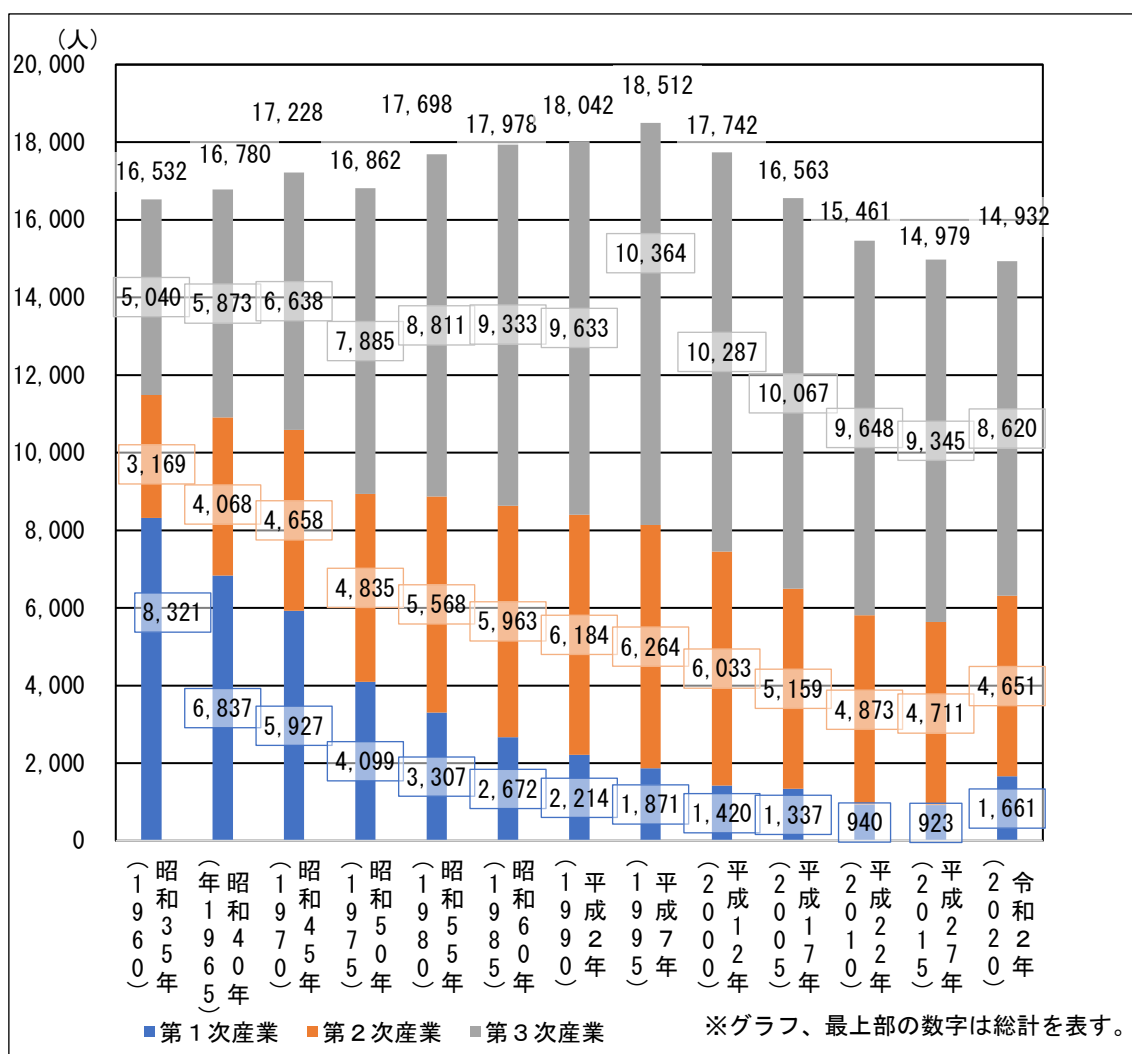


図 2-8 産業分類別就業者の推移 (国勢調査を加工して作成)

※平成 12 年 (2000) 年以前は旧産業分類による。分類不能の産業を除く。

（４）文化財関連施設

①市郷土歴史資料館（金津地区）

平成 25 年（2013）7 月に、生涯学習複合施設である金津本陣 IKOSSA 2 階にあわら市初の歴史系博物館施設として開館しました。博物館機能だけでなく、市内全般の文化財と埋蔵文化財の行政機能も集約しています。

展示は原始から近代までの通史を取り扱う常設展示のほか、地元に関連の深い歴史文化をテーマとした企画展を年 2 回開催し、市民が地域の歴史文化を学べる場所となっています。また、学校向けの出前授業や地区向けの出張講座も積極的に行い、資料館外でも歴史文化の学びができるよう取り組んでいます。



写真 2-1 市郷土歴史資料館
（金津本陣 IKOSSA 2 階）

②金津創作の森美術館（細呂木地区）

金津創作の森美術館は、平成 5 年（1993）に自然の里山を活かして整備した文化施設です。施設中核は美術館アートコアで、芸術家を招聘してシリーズ企画展「アートドキュメント」などの展覧会を実施しています。このほか、芸術体験ができる創作工房やガラス工房などがあります。

また、金津創作の森美術館の北側に入居作家ゾーンがあり、そこでは様々な芸術家がアトリエを構え、創作活動を通して国内外に金津創作の森美術館の情報を発信しています。



写真 2-2 金津創作の森美術館
アートコア

③藤野巖九郎記念館（温泉地区）

中国の文豪魯迅の師として有名な藤野巖九郎を紹介する施設で、書籍、医療器具、書簡など多くの遺品を展示しています。

建物は、藤野家から坂井市三国町にあった旧宅を寄贈されたもので、昭和 59 年（1984）7 月にあわら市文化会館横に移築しました。その後、平成 23 年（2011）に、現在の芦原温泉湯のまち広場に移築しています。

この「藤野巖九郎記念館」は平成 25 年（2013）に国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。

④その他

吉崎御坊と関連の深い真宗大谷派吉崎別院、本願寺吉崎別院、願慶寺、吉崎寺などの寺院が宝物の展示をしています。その他、一般財団法人本願寺文化興隆財団が平成 10 年（1998）に開館した吉崎御坊蓮如上人記念館があり、蓮如の魅力と歴史に触れることができます。



写真 2-3 藤野巖九郎記念館
（国登録有形文化財）

第 3 節 歴史的環境

（1）縄文時代から弥生時代

縄文時代は現在より気候が温かく、その影響で海水面が高かったことから、あわら市南部の平野部のほとんどは海でした。そのため、人々は北部から東部の台地を中心に、狩猟や採集をしながら定住生活を送っていました。

また、現在のハピラインふくい芦原温泉駅東口付近にあった桑野遺跡（金津地区）から、石製アクセサリー（玦状耳飾類）が多数出土しています。

弥生時代になると、縄文時代に海だった平野部が陸地となり、竹田川周辺に発達した自然堤防上などに人々は集落を作り、弥生時代中期に米作りが始まりました。現在も竹田川の南北に広がる田園風景の起源は、この時代にあります。

また、加越台地端部で弥生時代中期以降の方形周溝墓が確認されています。



写真 2-4 縄文時代の貴重な石製
アクセサリー
（福井県桑野遺跡出土品 国指定）



写真 2-5 山方里方地区で出土
した弥生時代の壺

（２）古墳時代から平安時代

あわら市内の多くの古墳は、平野を見渡せる山地や丘陵に築造されました。

中でも旧国道８号の東側の坪江地区から劔岳地区にまたがる山地には、数多くの古墳が築造されました（横山古墳群、県指定）。この築造には、継体天皇にゆかりの豪族が関わったと考えられています。

また、伊井地区に玉作りの集落があり、ここで作られた玉製品は古墳の副葬品として埋葬されました。

奈良時代に中央政権が地方との連絡をスムーズにするため、官道を整備しました。あわら市を古代の主要道である北陸道が貫通し、連絡用の馬を置いた駅家が伊井地区に設置されました。

このほか、北潟湖周辺の遺跡から製塩土器が多く出土しており、この地域では塩作りが盛んでした。また、細呂木地区で、製鉄遺跡や、古代の須恵器を生産していた窯跡が見つかっています。このようにあわら市は、交通・生産の重要拠点でした。

また、奈良時代中期に中央の有力寺院の荘園開発が始まり、東大寺領の桑原荘（伊井地区）や溝江荘（金津地区）が置かれました。

平安時代には、竹田川沿いの耕作しやすいところを中心に、興福寺領河口荘（本荘地区、新郷地区、金津地区、細呂木地区、吉崎地区）が開かれました。河口荘には九頭竜川から十郷用水が引かれ、現在もあわら市内の農地を潤しています。



写真２－６ 数多くの古墳がある
「横山古墳群」遠景

（横山古墳群 県指定）



写真２－７ 県内では珍しい古代の
製鉄遺跡

（細呂木製鉄遺跡 市指定）

（３）鎌倉時代から室町時代

鎌倉時代は、興福寺の荘園が竹田川北部にも広がります。坪江荘（劔岳地区から坂井市三国町）を設置し、河口荘と合わせて北国荘園と呼ばれました。

興福寺は荘園を経営する拠点を郷ごとに置き、そこに春日神社を勧請しました。近隣の地域に比べてあわら市内に春日神社が多いのはこのような理由によります。中でも、河口荘は本荘郷（本荘地区）に、坪江荘は金津宿（金津地区）にそれぞれ惣社を置き、地域の信仰を集めました。

また、北潟（北潟地区）や後山（劔岳地区）など、荘園ゆかりの地名が現在まで残ります。



図 2-9 河口荘・坪江荘想定地

（４）戦国時代から江戸時代

あわら市内の寺院は、真宗大谷派と浄土真宗本願寺派が 65% を占めます。これは戦国時代に浄土真宗本願寺の蓮如が、吉崎御山に坊舎を建立し（吉崎御坊跡、国指定、吉崎地区）、布教活動を行いました。吉崎御山周辺には門徒が集まり、多屋と呼ばれる寺内町を形成しました。やがて、北陸地方一帯に浄土真宗を信仰する人が増え、北陸地方が真宗王国といわれる礎になりました。

この頃から福井市の足羽山周辺で採掘された笏谷石の製品が多く流通しました。特にあわら市は、この時代では珍しい笏谷石で作られた石造狛犬が、各地区の神社に奉納されました。

また、鎌倉時代に発展した荘園で在地領主が勢力をたくわえました。河口荘溝江郷（金津地区）に溝江氏が、同荘本荘郷（本荘地区）に堀江氏が、坪江上郷の瓜生（坪江地区）に武曾氏^{むそう}がそれぞれ拠点を置き支配しました。彼らは国衆と呼ばれ、戦国大名朝倉氏の家臣として活躍しました。あわら市は加賀一向一揆との



写真 2-8 真宗王国北陸始まりの地にたつ蓮如像

最前線に当り、国衆は防御に力を入れ、支配地の山々に城を築き来襲に備えました。現在も山中に山城跡が残っています。

江戸時代初期は初代福井藩主結城秀康の重臣である多賀谷左近三経^{たがやさこんみつね}が、柿原（細呂木地区）を中心に3万2千石を与えられ、北の加賀藩に対峙しました。

多賀谷氏が2代で断絶した後、金津に藩の奉行所が置かれ主に九頭竜川以北を統治しました。また、加賀国との国境であったため、細呂木番所（「細呂木関所跡」市指定、細呂木地区）をはじめとして、主要道路沿いに往来監視のための番所が置かれました。

一方農業分野では、平安時代に河口荘へ引かれた十郷用水がその後も農地を潤し、農業を発展させました。用水管理者（井奉行）の重責は、本荘春日神社の社家であった大連家が担いました。江戸時代中期以降、あわら市内は幕府や複数の大名の領地が入交じり、隣同士の村でも領主が異なっていたため、用水の利害調整は大変なことでした。

また、江戸時代は全国で街道が整備されました。あわら市を通っていた旧北陸道では、千束一里塚（県指定、金津地区）が設置され、道沿いの金津と細呂木の宿場町は賑わいました。日用品を使って町人が作った本陣飾り物は、金津宿に赴任した役人をもてなしたのが始まりで、現在でも金津祭に受け継がれています。

海側の吉崎浦（吉崎地区）や浜坂浦（北潟地区）には北前船の船主がおり、日本海側各地と交易を行いました。波松浦は漁業が盛んで、地引網のほかにクジラ漁が行われ、ハレの日には鯨汁をふるまいました。



写真 2-9 多賀谷左近三経の墓
（多賀谷左近三経石廟 市指定）



写真 2-10 本陣飾り物
（令和元年市長賞 十日区製作）

（5）明治時代から戦前

明治5年（1872）に、日本最初の近代学校教育制度として学制が公布されると、あわら市内に学校が作られました。現在ある小学校7校のうち4校（本荘小学校、北潟小学校、金津小学校、伊井小学校）がこの時に作られ、令和5年（2023）に

創立 150 周年を迎えました。

また、道路や鉄道が整備され、人々の生活は大きく変わりました。明治 6 年（1873）に丸岡と大聖寺の有志が道路整備を請願し、丸岡から牛ノ谷峠を越えて大聖寺を結ぶ道を整備しました。明治 11 年（1878）10 月に明治天皇の北陸巡幸路として使われました。牛ノ谷や中川には明治天皇行幸を記念する碑が今も残ります。明治 30 年（1897）に北陸線（現ハピラインふくい）が開業し、金津に駅が置かれました。これにより物流は船による水運から、鉄道による陸運が主流となりました。

この時代の重要な出来事は、芦原温泉の発見と温泉を中心とした新しい街の形成です。明治 16 年（1883）に最初の源泉が掘り当てられ、明治 19 年（1886）に県が温泉資源保護のため、新規掘削を禁止するまでの間、実に 76 本の源泉が開発されました。それらの源泉を中心に温泉街が急速に拡大し、一大観光地となりました。地域で芦原温泉を盛り上げるため、芦原温泉の魅力をうたった芦原節などが作られ、明治時代の終わりごろには芦原温泉春祭が開催されました。



写真 2-11 あわら温泉発祥の井戸跡

封建制から近代的中央集権が確立する過程で、明治 21 年（1888）に町村制が制定されました。これをうけて、翌明治 22 年（1889）に町村合併が行われ、金津町をはじめ 9 町村に編成されました。この時にできた町村が、現在の 12 地区の基となっています。

昭和 8 年（1933）10 月に、陸軍大演習が行われました。昭和天皇が統監のためあわら市を訪れ、伊井塚山（伊井地区）の観戦所で観戦しました。その場所が現在の昭和公園です。

第 2 次世界大戦がはじまり、戦争が激化してきた昭和 19 年（1944）に、温泉旅館は営業をやめ、疎開児童を受け入れました。昭和 20 年（1945）になると児童は再疎開で別の場所へ移り、温泉旅館は軍の療養所として使われました。

（6）戦後以降

昭和 23 年（1948）6 月 28 日に起きた福井地震により、あわら市内では死者約 400 名、家屋の倒壊は約 3,700 戸、火災による焼失は約 300 戸に及ぶ甚大な被害に遭いました。金津の街中は倒壊と火災により多くの貴重な人命と文化財が失われました。また、昭和 31 年（1956）には芦原大火があり、温泉旅館が 16 軒、

民家 309 戸が全焼し当時の新聞に「芦原温泉壊滅す」、と報じられるほどの被害を受けました。芦原温泉では先の福井地震と併せて大きな災害に見舞われたことにより、開湯当初からの資料の多くが失われました。

平成 16 年（2004）に芦原町と金津町の合併によりあわら市が誕生し、平成 25 年（2013）にあわら市内初の博物館施設で

ある市郷土歴史資料館が開館しました。地域の歴史文化を展示することにより、市民が自分の住んでいる地域の歴史文化に興味を持ち、それらを地域の活性化に活かしていこうとする動きが増えていきました。

そして、令和 6 年（2024）3 月に、北陸新幹線敦賀延伸に伴い、新幹線の芦原温泉駅が開業し、新たな街へと発展しています。



写真 2-12 芦原大火

第3章 あわら市の文化財の概要

第1節 文化財の概要

(1) 指定等文化財

令和7年（2025）8月時点で、あわら市には指定・登録文化財が83件あります。このうち国指定が6件、県指定が16件、市指定が58件、国登録が3件です。文化財の類型でみると、有形文化財は、建造物が10件、美術工芸品が42件（絵画8件、彫刻20件、工芸品3件、古文書3件、考古資料3件、歴史資料5件）あります。民俗文化財は2件（無形の民俗文化財2件）、記念物は29件（遺跡15件、名勝地1件、動物・植物・地質鉱物13件）あります。無形文化財の指定、文化的景観、伝統的建造物群の選定及び無形文化財・無形の民俗文化財の選定実績はありません。また、文化財の保存技術の選定也没有ありません。

表3-1 指定・登録文化財の件数内訳

令和7年（2025）8月時点

類型			国指定	国選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物		0	—	—	2	5	3	10
	美術工芸品	絵画	0	—	—	5	3	0	8
		彫刻	0	—	—	3	17	0	20
		工芸品	0	—	—	0	3	0	3
		書跡・典籍	0	—	—	0	0	0	0
		古文書	0	—	—	1	2	0	3
		考古資料	1	—	—	0	2	0	3
		歴史資料	0	—	—	0	5	0	5
無形文化財			0	—	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	—	—	0	0	0	0
	無形の民俗文化財		0	—	0	1	1	0	2
記念物	遺跡		1	—	—	4	10	0	15
	名勝地		0	—	—	0	1	0	1
	動物・植物・地質鉱物		4	—	—	0	9	0	13
文化的景観			—	0	—	—	—	—	0
伝統的建造物群			—	0	—	—	—	—	0
合計			6	0	0	16	58	3	83

(2) 未指定文化財

令和 7 年（2025）8 月時点で、あわら市が把握している未指定文化財は 382 件です。地区別の内訳は表 3－2 のとおりです。

表 3－2 未指定文化財の地区別件数内訳

令和 7 年（2025）8 月時点

地区 類型		地区														複数 地区問わず 地区不明	合計
		温泉	山方里方	本荘	新郷	北潟	波松	金津	伊井	坪江	剱岳	細呂木	吉崎				
有形文化財	建造物	0	1	9	2	3	6	13	3	5	0	9	5	8	64		
	美術工芸品	絵 画	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	4	
		彫 刻	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	3	8	
		工芸品	1	2	0	0	3	1	1	1	2	0	1	2	0	14	
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0	4	0	2	1	3	0	1	11	
		古文書	0	10	17	5	5	1	2	2	15	4	9	1	1	72	
		考古資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
		歴史資料	2	3	2	0	2	0	19	4	15	4	16	8	0	75	
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	5		
	無形の民俗文化財	3	0	0	0	6	0	1	0	8	9	7	10	11	55		
記念物	遺 跡	1	0	1	0	3	0	5	5	4	5	16	7	3	50		
	名勝地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
	動物・植物・地質鉱物	1	1	0	0	2	0	0	1	5	1	9	1	0	21		
合 計		13	17	29	7	27	9	47	16	59	25	72	36	25	382		

第2節 文化財の特徴

(1) 有形文化財

① 建造物

建造物は県指定が2件、市指定が5件で、国登録が3件、未指定は64件把握しました。昭和23年(1948)に起きた福井地震の影響で、震源に近いあわら市の東部や南部はその時に被害を受けたため、あまり歴史的建造物が残っていません。震災被害が少なかった西部や北部では本荘春日神社本殿(県指定、本荘地区)をはじめとして、伝世しているものがあります。未指定は、笏谷石製の石廟を11地区で把握しました。

それら市内の寺社建築を多数手掛けた伊井大工は、伊井地区で江戸時代から昭和時代前半まで活躍し、精緻な彫刻を施すのが特徴です。



写真3-1 本荘春日神社本殿(建造物)(県指定 本荘地区)

② 美術工芸品

絵画は県指定が5件、市指定が3件で、未指定は4件把握しました。指定では絹本着色梅山闇本禅師像(県指定、坪江地区)や仏画(3幅)(市指定、北潟地区)など、宗教に関するものが8件中7件を占めます。未指定は、阿弥陀如来絵像や親鸞聖人御影など、宗教に関する絵像を把握しました。

彫刻は県指定が3件、市指定が17件で、未指定は8件把握しました。指定は白山信仰と関わりのある十一面観音立像(市指定、新郷地区)など、仏像が9割を占めます。一方、未指定は笏谷石製の石造狛犬が多く含まれています。



写真3-2 石造狛犬 永正十二年銘(彫刻)(県指定 細呂木地区)

工芸品は市指定が3件で、未指定は14件把握しました。代表的なものとして、朱銀振分塗伊予札二枚胴具足・壱領（市指定、金津地区）があります。未指定は、伊井地区応連寺に伝わる鉄笛や北潟地区の安楽寺に伝わる神輿などを把握しました。

書跡・典籍は、指定がなく、未指定は11件把握しました。蓮如が与えたとされる六字名号などが伝わり、市民に大切にされています。

古文書は県指定が1件、市指定が2件で、未指定は72件把握しました。龍澤寺文書（県指定、坪江地区）のように中世文書を含むものもわずかにはありますが、ほとんどが近世以降の古文書です。これは、戦国時代に一向一揆や織田信長による焼打ちなどの影響があげられます。未指定は、本荘地区の大連彦兵衛家文書や坪江地区の土屋豊彦家文書などを把握しました。

考古資料は、国指定1件、市指定が2件で、未指定は1件把握しました。福井県桑野遺跡出土品（国指定、金津地区）は、質・量ともに日本最高クラスであること、外国産の石材が含まれていることから、学術的価値は極めて高いと評価され国指定の重要文化財に指定されました。未指定は、劔岳地区の古代瓦を把握しました。

歴史資料は、市指定が5件、未指定は75件把握しました。南北朝時代の指中の板碑（市指定、細呂木地区）や、明治天皇の行幸記念で作られた駐輦記念碑（未指定、坪江地区）など、地区の歴史を物語る石碑が多く占めています。



写真3-3 朱銀振分塗伊予札二枚胴具足（工芸品）（市指定金津地区）

（２）無形文化財

無形文化財は指定がなく、未指定は 1 件把握しました。細呂木地区を中心とした越前瓦の製作技術（未指定、細呂木地区）があげられます。瓦の生産は江戸時代から行われ、最盛期には北海道まで瓦が運ばれていました。しかし、昭和 30 年代をピークに、徐々に衰退していき、現在は鬼瓦を作る工房が 1 軒のみとなっています。



写真 3-4 越前瓦の製作技術（無形文化財）による鬼瓦
（未指定 細呂木地区）

（３）民俗文化財

有形の民俗文化財の指定がなく、未指定は 5 件把握しました。そのうち金津箕（未指定、金津地区）は、身近にあった竹田川の女竹を利用し、先端には丈夫な桜の皮を使うことが特徴の箕です。明治時代末には年間 2 万個も作られた金津地区の名産品でした。

無形の民俗文化財は県指定が 1 件、市指定が 1 件で、未指定は 55 件把握しました。『福井県の祭り・行事』（平成 24 年（2012）から平成 26 年（2014））では金津祭（市指定、金津地区）、北潟祭（未指定、北潟地区）が大きく取り上げられています。このほか、各集落の神社祭礼も地域住民により大切に続けられています。



写真 3-5 金津祭（無形の民俗文化財）（市指定 金津地区）

（４）記念物

遺跡は、国指定が１件、県指定が４件、市指定が１０件で、未指定は５０件把握しました。浄土真宗本願寺の蓮如が建立した吉崎御坊跡（国指定、吉崎地区）を拠点に布教活動を進め、今日の真宗王国と呼ばれる基を築きました。福井県の嶺北地方北部では、丘陵の尾根筋に古墳が造られる傾向があり、あわら市内でも、東側の平野部を見渡せる丘陵地に、横山古墳群（県指定、坪江地区・劔岳地区）や矢地山古墳群（未指定、伊井地区）などの古墳が造営されました。また、交通にかかわる遺跡として、千束一里塚（県指定、金津地区）や旧北陸道（市指定、細呂木地区）など、あわら市中央を縦断していた旧北陸道関係の文化財が所在しています。

名勝地は、市指定が１件で、未指定は１件把握しました。室町時代の名僧、梅山が開山した龍澤寺の龍沢寺庭園（市指定、坪江地区）は、室町期の枯山水庭園の特徴をよく留めています。未指定は、北潟湖に広がる北潟曲江八景を把握しました。

動物・植物・地質鉱物は、国指定が４件、市指定が９件で、未指定は２１件把握しました。指定は社叢林（市指定、山方里方地区）に代表される植物が中心です。未指定は、神奈備清水（未指定、坪江地区）や清水ヶ谷の泉（未指定、細呂木地区）などの水関係、坪江地区や細呂木地区から発見された化石などがあります。また、芦原温泉（未指定、温泉地区）は田園風景の中で営まれる温泉街で、旅館ごとに豪華な庭園をしつらえています。

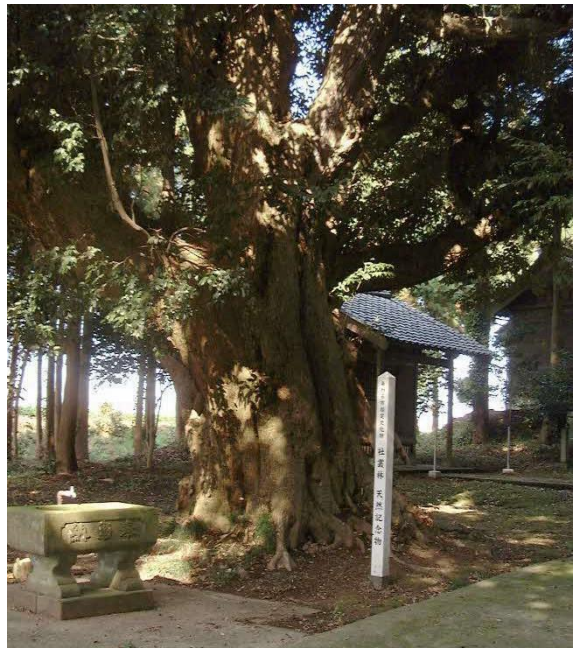


写真３－６ 社叢林（井江葭八幡神社、天然記念物）
（市指定 山方里方地区）

（５）埋蔵文化財

福井県教育委員会が実施した遺跡分布調査（平成４年（１９９２）刊行）では、あわら市内の埋蔵文化財包蔵地は２５４か所が確認されています。時代別は表３－３、地区別は表３－４のとおりです。これら包蔵地のうち、福井県もしくはあわら市により発掘調査が行われた遺跡は２８か所です。

表 3-3 時代別埋蔵文化財包蔵地件数

縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	合計
39	61	81	102	136	112	35	566

※複合遺跡があるため、地区別の包蔵地件数と異なる

表 3-4 地区別埋蔵文化財包蔵地件数

温泉	山方 里方	本荘	新郷	北潟	波松	金津	伊井	坪江	劔岳	細呂木	吉崎	合計
0	30	21	9	52	13	16	19	27	13	50	4	254

表 3-5 埋蔵文化財包蔵地一覧

1	舟津遺跡	52	河間遺跡	103	北潟西北部田遺跡	154	古屋石塚北遺跡	205	木貫遺跡
2	井江森貝塚	53	河間徳丸遺跡	104	北潟西油木田遺跡	155	南福越遺跡	206	細呂木窯跡
3	井江蔵古墳群	54	河間南遺跡	105	北潟善慶遺跡	156	八皇子山古墳群	207	青ノ木遺跡
4	井江蔵松ヶ下遺跡	55	角屋遺跡	106	北潟中之木下遺跡	157	矢地遺跡	208	柿原三宮谷窯跡
5	井江蔵上出口遺跡	56	専光寺屋敷遺跡	107	北潟長坂遺跡	158	矢地古墳群	209	柿原寺垣内窯跡
6	井江蔵田屋敷遺跡	57	宮前公文遺跡	108	北潟東遺跡	159	矢地城跡	210	柿原中扶窯跡
7	横垣古墳群	58	中ノ浜遺跡	109	北潟南苗代遺跡	160	矢地山古墳群	211	柿原能子窯跡
8	横垣糸田遺跡	59	中ノ浜北遺跡	110	北潟白谷遺跡	161	上野後谷遺跡	212	清王上野田窯跡
9	横垣惣太郎山遺跡	60	北本堂遺跡	111	北潟白谷長坂遺跡	162	牛ノ谷遺跡	213	清王上平遺跡
10	牛山後谷遺跡	61	富津遺跡	112	北潟野茂瀬遺跡	163	牛ノ谷下樋ノ爪遺跡	214	清王古墳群
11	牛山前田遺跡	62	赤尾遺跡	113	波松・苗代遺跡	164	牛ノ谷宮前遺跡	215	清王戸之瀬遺跡
12	牛山北前田遺跡	63	赤尾嫁蔵遺跡	114	波松遺跡	165	牛ノ谷古墳	216	沢遺跡
13	国影遺跡	64	赤尾碓鉢谷遺跡	115	波松下城谷遺跡	166	瓜生遺跡	217	高塚遺跡
14	重義遺跡	65	赤尾丸山遺跡	116	波松四番宅地遺跡	167	瓜生火葬墓	218	高塚向山遺跡
15	重義熊寄遺跡	66	赤尾丸山下遺跡	117	波松上三番割遺跡	168	瓜生城跡	219	滝遺跡
16	松影南遺跡	67	赤尾鯉清水遺跡	118	城中島遺跡	169	瓜生中町遺跡	220	滝大磐遺跡
17	松影北遺跡	68	赤尾三ノ輪遺跡	119	城堂ノ越遺跡	170	御康尾遺跡	221	滝岡ノ谷遺跡
18	田中々北遺跡	69	赤尾上亀ノ尾遺跡	120	城苗代A遺跡	171	御康尾館跡	222	滝下中尾遺跡
19	二面向国影前遺跡	70	赤尾上藤太郎遺跡	121	城苗代B遺跡	172	北野遺跡	223	滝谷窯跡
20	二面向山遺跡	71	赤尾村下遺跡	122	城路野尾遺跡	173	北足田遺跡	224	橋屋遺跡
21	二面西三百筋遺跡	72	浜坂遺跡	123	北潟苗代遺跡	174	次郎丸館跡	225	音部遺跡
22	二面東宅地遺跡	73	小牧遺跡	124	西山遺跡	175	熊坂遺跡	226	細呂木岩山遺跡
23	二面妙見寺塚遺跡	74	小牧小谷南遺跡	125	番堂野遺跡	176	笹岡上角目遺跡	227	連ヶ浦柴田遺跡
24	番田遺跡	75	小牧小谷北遺跡	126	北金津東中道遺跡	177	笹岡大坪遺跡	228	樋山遺跡
25	番田長弘遺跡	76	小牧大兼遺跡	127	北金津西部遺跡	178	笹岡大野遺跡	229	樋山城跡
26	北番田遺跡	77	小牧中田遺跡	128	桑野遺跡	179	笹岡下角目遺跡	230	福龍寺跡
27	堀江館跡(番田城跡)	78	西長割遺跡	129	稲荷山古墳群	180	向山遺跡	231	細呂木岩崎遺跡
28	布目遺跡	79	北潟円山遺跡	130	北金津西中道遺跡	181	牛ノ谷前田遺跡	232	細呂木江尻下鴨遺跡
29	布目北遺跡	80	北潟海田ノ脇遺跡	131	金津新江ノ尻遺跡	182	中川丸山遺跡	233	細呂木城跡
30	堀江十楽遺跡	81	北潟雁床遺跡	132	南金津遺跡	183	横山古墳群	234	細呂木阪東山遺跡
31	根上戸遺跡	82	北潟国ヶ平遺跡	133	千束瀬横穴	184	今村氏館跡	235	細呂木館跡
32	下番遺跡	83	北潟小坂遺跡	134	千束山城跡	185	東田中遺跡	236	細呂木八木山遺跡
33	下番荒谷遺跡	84	北潟上湯ノ口遺跡	135	馬場坪内遺跡	186	東田中岡山遺跡	237	宮谷遺跡
34	下番東弘遺跡	85	北潟石ヶ山遺跡	136	金津奉行所跡	187	前谷遺跡	238	宮谷嶋田窯跡
35	下番豊田遺跡	86	北潟太筋割遺跡	137	溝江館跡	188	上野山城跡	239	宮谷樋ノ詰遺跡
36	堀江館跡	87	北潟田浦遺跡	138	向山古墳群	189	後山三味遺跡	240	多賀谷館跡
37	堀江館跡(本庄城跡)	88	北潟粕田A遺跡	139	柴山崎遺跡	190	後山出戸遺跡	241	山室下向遺跡
38	玉木遺跡	89	北潟粕田B遺跡	140	福越遺跡	191	後山館跡	242	山室砂長谷遺跡
39	轟木遺跡	90	北潟彦良遺跡	141	北福越遺跡	192	鎌谷遺跡	243	指中遺跡
40	上番・根上り遺跡	91	北潟巳野田A遺跡	142	伊井遺跡	193	鎌谷窯跡群	244	指中稲子遺跡
41	上番仏出戸遺跡	92	北潟巳野田B遺跡	143	伊井植木遺跡	194	清滝庵寺経塚	245	指中大坪遺跡
42	新田遺跡	93	北潟野手遺跡	144	河原井手遺跡	195	清滝北谷経塚	246	指中古墳群
43	谷島遺跡	94	北潟野敷道遺跡	145	清間遺跡	196	清滝日和川遺跡	247	指中南遺跡
44	中番遺跡	95	北潟脇田遺跡	146	桑原遺跡	197	柗山跡	248	川口城跡(神宮寺城跡)
45	中番観音前遺跡	96	知原遺跡	147	桑原西遺跡	198	柗山城跡	249	山十楽古墳
46	中番江ノ口遺跡	97	北潟トチ欠遺跡	148	桑原館跡	199	権世神田遺跡	250	山十楽白山堂遺跡
47	中番中元遺跡	98	北潟愛の神遺跡	149	菅野遺跡	200	瓦谷窯跡	251	吉崎東御山遺跡
48	南中番遺跡	99	北潟横枕遺跡	150	菅野古墳群	201	青ノ木遺跡	252	春日神社城跡
49	東善寺遺跡	100	北潟河瀬遺跡	151	菅野式牧田遺跡	202	青ノ木太郎丸遺跡	253	吉崎音部遺跡
50	東善寺古戦場遺跡	101	北潟高江瀬遺跡	152	古屋石塚西遺跡	203	青ノ木堂ヶ谷遺跡	254	吉崎経塚
51	仏徳寺遺跡	102	北潟小音部遺跡	153	古屋石塚遺跡	204	青ノ木西垣内遺跡		

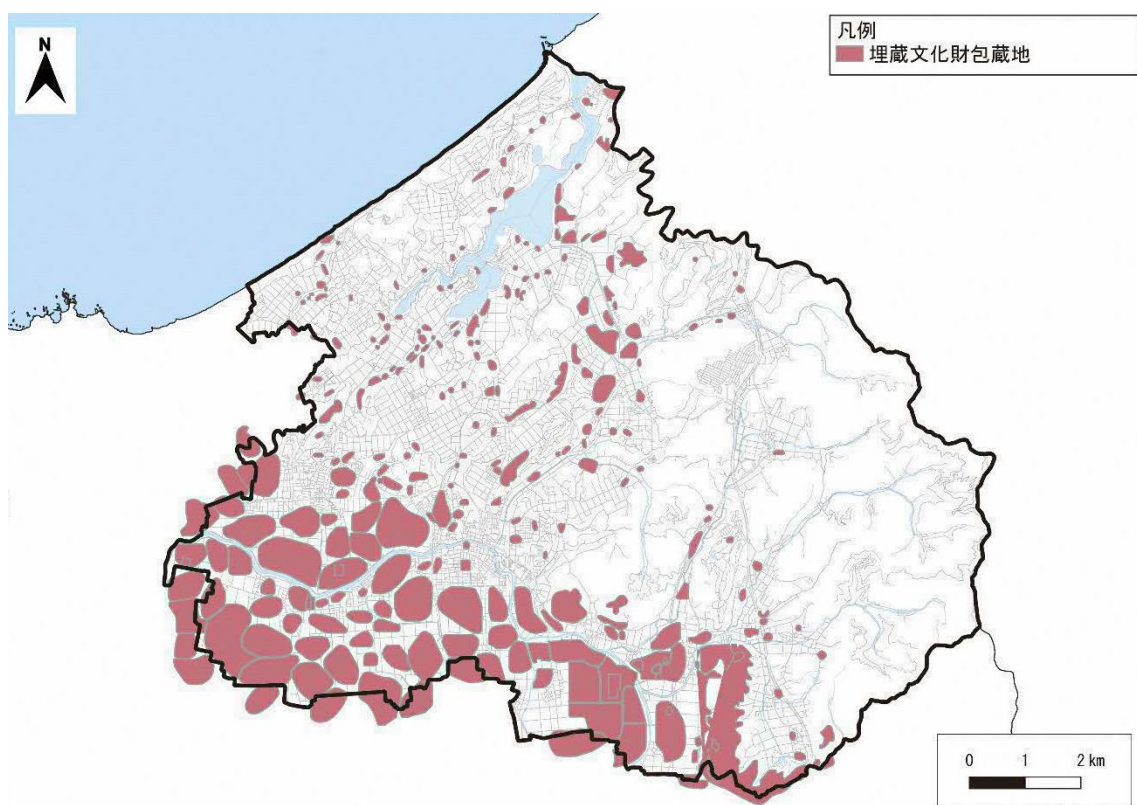


図 3-1 埋蔵文化財包蔵地（全体）（国土数値情報（行政区域データ）、基盤地図情報（基本項目）、福井県遺跡・文化財情報管理システム「福井の文化財」https://bunkazai.pref.fukui.lg.jp/buried_map を加工して作成）

第4章 あわら市の歴史文化の特性

あわら市は第2章第1節(2)でまとめたように地区により変化に富んだ地形です。それぞれの地区に独特の文化を育み、あわら市の歴史文化は多面をもっています。

また、越前国と加賀国の国境地帯にあたり、各時代に様々な歴史的事象がありました。

あわら市の歴史文化の特性を、前節までにまとめた内容から時代別、12地区別、文化財別に次のように整理します。

表4-1 時代・地区・文化財別の歴史文化を示すキーワード

歴史的背景		地区ごとの特徴		文化財の特徴的なテーマ
縄文時代	<ul style="list-style-type: none"> 各地区に点在する縄文時代の遺跡と、時代を代表する桑野遺跡の石製装身具 弥生時代中期以降から始まる方形周溝墓の造営 弥生時代末～古墳時代初期の玉造集落 横山古墳群に代表される群集墳 	温泉地区	<ul style="list-style-type: none"> 芦原温泉と関連文化⑪ 	① 玦状耳飾に代表される縄文遺跡群
弥生時代		山方里方地区	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代の遺跡群① 市内で古い古墳群② 台地の農業③ 	② 北陸最大級の横山古墳群と古墳文化
古墳時代		本荘地区	<ul style="list-style-type: none"> 河口荘本荘郷と惣社本荘春日神社④ 国衆堀江氏⑤ 十郷用水と井奉行大連家⑤ 	③ 多様なモノづくり文化
奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> 古代北陸道の設置 古代の生産遺跡(製塩、製鉄、須恵器等) 秦澄による白山信仰の始まり 安楽寺の開山 東大寺領桑原荘、興福寺領河口荘の設置 	新郷地区	<ul style="list-style-type: none"> 河口荘新郷と御前神社④ 	④ 平野に広がる十郷用水と中世の荘園
平安時代		北潟地区	<ul style="list-style-type: none"> 北潟湖畔に広がる原始の遺跡群① 北潟湖の漁業③ 安楽寺と八雲神社⑧ 北潟祭⑩ 	⑤ 加越国境に展開する国衆と城館遺跡
鎌倉時代		波松地区	<ul style="list-style-type: none"> 浜文化③ 北前船の船乗り⑦ 	⑥ 海沿いに展開する浜文化と北前船
室町時代	<ul style="list-style-type: none"> 多賀谷氏の柿原入部 金津奉行の設置 金津宿、細呂木宿の発展 金津宿の文化 北陸道を中心とした交通路の整備(一里塚、番所の設置等) 北前船の発展 十郷用水と農業の発展 伊井大工の活躍 北潟湖や海辺の漁業 	金津地区	<ul style="list-style-type: none"> 桑野遺跡と玦状耳飾① 金津を治めた清江氏⑤ 交通、荘園の中心地の金津宿⑦ 金津祭と本陣飾り物⑩ 	⑦ 旧北陸道を中心とした交通
安土桃山時代		伊井地区	<ul style="list-style-type: none"> 玉造遺跡③ 寺社を作った伊井大工③ 東大寺領桑原荘④ 	⑧ 地元に根付く厚い信仰
江戸時代		坪江地区	<ul style="list-style-type: none"> 平野を望む古墳群② 秦澄と畝畦寺④ 梅山の開いた龍澤寺⑧ 中世の豪族⑤ 	⑨ 石造物群
明治時代	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新道の建設と明治天皇の北陸巡幸 町村制の成立 芦原温泉の開湯 国鉄北陸線の開通 昭和の陸軍大演習 	鷺岳地区	<ul style="list-style-type: none"> 横山古墳群と棚古墳② 中世の城郭⑤ 風谷峠越道⑦ 	⑩ 地域が守る祭文化
大正時代		細呂木地区	<ul style="list-style-type: none"> 古代の生産遺跡群③ 河口荘細呂木④ 加越国境と加賀一向一揆の最前線⑤ 旧北陸道と細呂木関所⑦ 	⑪ 芦原温泉と温泉文化
昭和時代(戦前)		吉崎地区	<ul style="list-style-type: none"> 北前船船主⑥ 蓮如と吉崎御坊⑧ 蓮如忌と御影道中⑧ 	
昭和時代(戦後)	<ul style="list-style-type: none"> 福井震災による被害 旧金津町、旧芦原町の成立 芦原大火 加越台地の農地整備 あわら市の成立 歴史文化を活かした地域づくり 			
平成時代				
令和時代				

表4-1のとおり整理した歴史文化から導き出された、あわら市の歴史文化の特性は、以下の6点に整理することができます。

（1）低山地に分布する横山古墳群などの群集墳（②）

あわら市の古墳は、北部の加越台地や東部の横山など、平野を見下ろす低山地に群集墳が造営されました。

弥生時代以降には、縄文時代に海だった平野部が陸地となり、竹田川周辺に自然堤防が発達しました。そこに人々が集落を作り、弥生時代中期には米作りを始めました。次第に豪族が力をつけ、古墳時代になると数多くの古墳を低山地に造営しました。低山地には、現在も群集墳が残っています。

（2）交流と文化を生み出した多様な道～旧北陸道・竹田川・日本海～（①・⑥・⑦）

あわら市は日本海の手運、竹田川や観音川の水運、市内を縦貫する旧北陸道などの陸運と、多様な通行手段が交わる交通の要衝で、外との交流が盛んでした。

縄文時代から海外との交流があり、福井県桑野遺跡出土品のように海外からもたらされたものがあります。

旧北陸道はルートを変更しながら都と北陸地方を結び、人々の交流を支えました。また、旧北陸道と水運が盛んだった竹田川が結節する金津は、平安時代末からその名が見られ、江戸時代には宿場町として栄えました。宿場町の名残を残す文化財が現在に伝わっています。

（3）加越山地・坂井平野・北潟湖・日本海が育んだ生業（③・⑥）

あわら市の地形は、東部の山岳地帯、南部の坂井平野、北西部の北潟湖からなり、西は日本海に面しています。人々は変化に富んだ地形の上に、各時代に適した生業を営みました。

山では古代瓦を生産し、平地では古墳時代の玉造や古代の製鉄、江戸時代には瓦の生産、北潟湖では古代製塩、海では水産業を行いました。その当時の生業を現代に伝える文化財が残っています。

（4）市内に広がる興福寺の荘園と、それを守った堀江氏・溝江氏・武曾氏ら国衆（④・⑤）

あわら市の平野部に広がる田園風景は、古代の桑原荘や、中世の河口荘・坪江荘の開発によって形作られました。これらの荘園で武曾氏などの国衆が力をつけ、戦国時代には城館を構えて国境の戦乱から地域を守りました。

奈良時代中期に中央の有力寺院の荘園開発が始まり、東大寺領の桑原荘（伊井

地区)や溝江荘(金津地区)が開発されました。中世には、竹田川沿いの耕作しやすいところに興福寺領河口荘(本荘地区、新郷地区、金津地区、細呂木地区、吉崎地区)が開発されました。現在も、あわら市の平野部には田園風景が広がり、荘園ゆかりの地名も残っています。

また、それら荘園の中で在地の国衆は力をつけ、戦国時代になると城館を構え国境の戦乱から地域を守りました。城館の遺構は現在も残されており、地区の人々により大切にされています。

(5) 地域に根付く祭りや信仰の厚さ (⑧・⑨・⑩)

あわら市は、宗教に関する建造物や彫刻のほか、祭礼などが多く残っており、厚い信仰が地域に根付いています。

あわら市内には多くの寺院があり、その8割が浄土真宗系で、報恩講などの行事があります。また、各地区の神社の多くでは、例祭がおこなわれています。これらは、現在も地域に受け継がれています。

神社には、江戸時代前の神仏習合が残り、神社本殿内に本地仏像が祀られています。各地区には越前狛犬をはじめ、石造物が多く残り、信仰の厚さを現しています。

(6) 芦原温泉と温泉文化 (⑪)

明治16年(1883)に最初の源泉を掘り当てた後、3年間で76本の源泉が開発され、新しい温泉街を形成しました。温泉街を盛り上げようと芦原節や芦原音頭を製作し、芦原温泉春祭を開催するなど、温泉文化を築き上げました。

初めて温泉が出た場所は4か村の境で、各村が競って温泉開発を行った結果、76本もの源泉が湧出しました。それらの源泉を中心に温泉街が急速に拡大し、一大観光地となりました。あわら温泉を盛り上げるため、地域の薬師神社の縁日に合わせた芦原温泉春祭の開催や、温泉街の魅力をうたった芦原節や芦原音頭などをつくり、温泉文化を築き上げました。

※丸番号は、表4-1の丸番号と対応します。

これらの歴史文化の特性は、市民があわら市の魅力や価値を歴史や文化財を通して再認識するためのよりどころになります。また、文化財の保存・活用のための体制確立や取り組み、計画期間中に実施する具体的な事業の基礎とします。

第5章 文化財の保存・活用に関する方針・事業

第1節 文化財の保存・活用の基本理念と方針

(1) 基本理念

あわら市は、古くから越前国・加賀国の国境地帯として独特な歴史文化を育んできました。現在に伝わる文化財はそれらの歴史文化を背景に、私たちの先祖が残してくれた貴重な財産です。

しかし、急速に進んでいる少子高齢化やそれに伴う社会状況の変化による地域の担い手減少により、多くの文化財が滅失の危機にあります。

先祖からの貴重な財産である文化財をこれから先の未来へ継承していくために、文化財の価値を明らかにした上であわら市全体に共有し、行政と文化財所有者や市民が連携して保存・活用を進めていく必要があります。

あわら市の歴史文化をふまえ、市の文化財の保存と活用について、この基本理念を次のとおりとします。

**あわら市の文化財を保存・活用して地域を
活性化し、みんなで文化財を未来へ継承する**

本理念を市地域計画の中心に据え、保存と活用を推進し、市民が誇れる歴史文化をこれから先の未来へ継承することを目指します。

(2) 基本方針

基本理念の実現に向けて、下記のとおり基本方針を定めます。

基本方針1 調査・研究

継続的な把握調査により、次代につなげる文化財を明らかにし、その中から特に重要なものは学術調査を実施し、文化財の価値を明確にします。

あわら市内では文化財の把握調査が不足しており、いまだ知られていない文化財が多くあると考えられます。更に文化財の価値を明らかにする学術調査が実施されておらず、その価値を市民に周知、還元できていないのが現状です。

今後、文化財の把握調査や学術調査を進め、それらの成果を市民に対して明らかにします。

基本方針２ 保存・継承

文化財を保存し、後世に継承するために必要な支援や措置を講じます。また、あわら市の歴史文化の魅力を市民に知ってもらうことで、ふるさと愛を醸成し、文化財の保存や継承につなげていきます。

文化財を後世に継承するため、文化財の保存・継承を担う継承者の育成を図ります。

また、新たに把握した未指定文化財についても、市民共有の財産として認識してもらえるよう周知を図ります。このほか、日頃より災害や盗難から文化財を守れるよう、災害リスクの把握やデータベース化など防災・防犯に関する仕組みを整理します。

基本方針３ 公開・活用

あわら市の歴史文化を地域の活性化につなげるため、文化財所有者や市民、行政が連携して文化財を活用できる仕組みを作り上げます。

文化財を次代に継承するには、市民が文化財を知り、親しむことが必要です。そのためには様々な主体により多様な文化財の活用ができる環境を整え、連携できる仕組みづくりを行います。

第2節 文化財の保存・活用の現況

(1) 調査・研究の現況

文化財に関する調査は、あわら市へ合併する前に各旧町村史の刊行に際して行いました。町村史は、『芦原町史』や『金津町史』のほか、6の旧村単位で刊行し、それぞれに刊行当時までの歴史文化の状況を記載しました。

合併後は、あわら市文化財保護委員会が文化財調査を行いました。その後、平成25年（2013）に市郷土歴史資料館を開館し、あわら市内の歴史文化に関する調査・研究を行っています。それらの成果を展示することで市民の文化財に対する認識が深まりました。また、指定文化財の件数も増加しています。

埋蔵文化財について、旧芦原町は開発行為などがあった時は県の埋蔵文化財調査センターに依頼し、発掘調査を行いました。旧金津町は埋蔵文化財センターを設置し、継続的に発掘調査を行ってきました。

文化財の調査状況については、表5-1のとおりです。以下、項目ごとに説明します。

①有形文化財

建造物は、昭和52年（1977）に県が中心となって実施した寺社建築の把握調査をはじめ、石塔や鳥居などの把握調査を行いました。その他、民家などの把握調査及び研究は全ての地区で不十分です。

美術工芸品は以下のとおりです。

絵画は、宗教絵画については一部把握できましたが、それ以外については把握が不十分です。

彫刻は、石造狛犬や石祠の把握はできましたが、仏像などについては把握が不十分です。

工芸品は、指定等文化財や神輿は把握できましたが、それ以外については把握が不十分です。

書跡・典籍は、六字名号については把握できましたが、それ以外の書跡・典籍については把握が不十分です。

古文書は、福井県史（平成5年（1993）から平成8年（1996）刊行）編纂の際に古文書の把握調査が実施され、令和2年（2020）に現況調査を実施し、おおむね把握ができています。

考古資料は劔岳地区の古代瓦を把握しましたが、その他の地区は把握が不十分です。

歴史資料は、指定等文化財について把握していますが、その他は把握が不十分です。

②無形文化財

全ての種別の把握調査は行っていないが、瓦作りについては、細呂木地区と坪江地区で把握調査を行っています。平成 24 年（2012）には伝統的な瓦作りの工程を映像に記録しています。

③民俗文化財

無形の民俗文化財は、県が昭和 54 年（1979）に緊急民俗調査報告書、昭和 63 年（1988）に緊急民謡調査報告書、平成 15 年（2003）に民俗芸能緊急調査報告書、平成 27 年に祭り・行事調査報告書をそれぞれ刊行した際に、把握調査が実施されています。市では平成 2 年（1990）に旧金津町教育委員会が民謡採集調査を実施しています。

有形の民俗文化財は把握が不十分です。

④記念物

遺跡は、旧町村で刊行した町村史や県の遺跡地図（平成 4 年（1992）刊行）作成の際に、把握調査を実施しています。

名勝地は、指定になったものについては県が学術調査を行いましたが、全体の把握調査は行っていません。

動物・植物・地質鉱物は、昭和 56 年（1981）に吉崎自然館が開館する際に、吉崎地区、北潟地区で把握調査を実施しました。その他の地区では、指定文化財がありますが、把握調査は不十分です。

芦原温泉については、昭和 7 年（1932）に開湯 50 年を記念して郷土史家の島崎圭一が記した『福井県芦原温泉誌』をはじめ、断続的に温泉に関する資料の収集を行っています。

⑤伝統的建造物群

伝統的建造物群は、これまで把握調査を行った実績はありません。

⑥埋蔵文化財

埋蔵文化財について、開発に伴う発掘調査を県、あわら市が行っています。

⑦文化財の保存技術

文化財の保存技術は、これまで把握調査を行った実績はありません。

表 5－1 文化財の把握調査の状況

類型・種別		地区											
		温泉	山方里方	本荘	新郷	北潟	波松	金津	伊井	坪江	鋤岳	細呂木	吉崎
有形文化財	建造物	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	美術工芸品												
	絵画	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	彫刻	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	工芸品	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	書跡・典籍	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	古文書	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	考古資料	×	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△
	歴史資料	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
無形文化財		—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	△	—
文化財	民俗												
	有形の民俗文化財	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	無形の民俗文化財	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
記念物	遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	名勝地	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
	動物・植物・地質鉱物	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○
文化的景観		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝統的建造物群		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埋蔵文化財		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文化財の保存技術		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

○：おおむね調査ができている △：さらに調査が必要 —：未調査

あわら市に関係する既刊の旧町村史、文化財関連書籍などは表 5－2、あわら市内遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書は表 5－3 のとおりです。

表 5－2 既存の旧町村史及び文化財関連書籍

No.	書籍名	著者	出版者	発行年	
				和暦	西暦
1	芦原温泉案内	芦原温泉旅館組合編	芦原温泉旅館組合	昭和 6 年	1931
2	福井県芦原温泉誌	島崎 圭一	芦原温泉誌刊行会	昭和 7 年	1932
3	北潟村誌		坂井郡北潟青年学校	昭和 11 年	1936

No.	書籍名	著者	出版者	発行年	
				和暦	西暦
4	昭和十年度に於ける芦原温泉の現状		芦原町	昭和 11 年	1936
5	福井地震芦原震災誌		芦原町	昭和 26 年	1951
6	福井県芦原温泉誌	藤井 武志	芦原温泉観光協会	昭和 28 年	1953
7	伊井村誌	伊井村誌編纂委員会	伊井村役場	昭和 29 年	1954
8	劔岳村誌	劔岳村誌編纂部	劔岳村	昭和 30 年	1955
9	芦原温泉附近の伝説集	芦原温泉観光協会編	芦原温泉観光協会	昭和 31 年	1956
10	金津町史	金津町史編纂委員会	金津町教育委員会事務局	昭和 33 年	1958
11	細呂木村誌	細呂木村誌委員会	細呂木村誌委員会	昭和 38 年	1963
12	金津町の生い立ち	大木下馨	金津町中央公民館	昭和 42 年	1967
13	吉崎小学校教育一〇〇年史年表		金津町吉崎小学校	昭和 47 年	1972
14	芦原町史	芦原町史編纂委員会	芦原町教育委員会	昭和 48 年	1973
15	芦原温泉開湯九十周年祭		芦原町	昭和 48 年	1973
16	金津町の史話と伝説	土屋 久雄	金津町	昭和 49 年	1974
17	町づくり 20 年	山口 喜三太	金津町	昭和 49 年	1974
18	旧金津城主溝江家 落城とその後	土屋 久雄	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 54 年	1979
19	福井県民俗分布図		福井県教育委員会	昭和 56 年	1981
20	八幡神社御再建記念	金津町坂ノ下区		昭和 56 年	1981
21	金津の文化財		金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 57 年	1982
22	金津町の文化財	金津町文化財保護委員会	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 57 年	1982
23	龍澤寺史	土屋 久雄	龍澤寺	昭和 57 年	1982
24	姫川吟社遺芳目録		金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 59 年	1984
25	芦原町の文化財	芦原町文化財保護委員会	芦原町教育委員会	昭和 59 年	1984
26	金津姫川吟社と雨夜塚	土屋 久雄	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 59 年	1984
27	開湯芦原 100 年史	芦原温泉開湯 100 周年記念誌編集委員会	芦原町	昭和 59 年	1984
28	吉崎のむかし話	金津町文化財保護委員会	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 59 年	1984
29	坪江の郷土史	金津町教育委員会	金津町教育委員会事務局	昭和 60 年	1985

No.	書籍名	著者	出版者	発行年	
				和暦	西暦
30	古図から見た吉崎御坊跡	土屋 久雄	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 62 年	1987
31	堀江氏館跡の考察		本荘郷土史研究会	昭和 62 年	1987
32	福井県の民謡－民謡緊急調査報告書－		福井県教育委員会	昭和 63 年	1988
33	蓮如関係資料目録	金津町教育委員会	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	昭和 63 年	1988
34	蓮如 吉崎御坊と門徒	朝倉 喜祐	金津町観光協会	平成元 年	1989
35	永井鱗太郎文庫目録		金津町立図書館	平成元 年	1989
36	新考中番村誌	坂井 健夫		平成元 年	1989
37	宿場史跡 金津町坂ノ下	山口 喜三太	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	平成 3 年	1991
38	愛日文庫目録	金津町立図書館	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	平成 3 年	1991
39	芦原町の文化財	芦原町文化財保護委 員会	芦原町教育委員会	平成 3 年	1991
40	堀江石見守調査報告書	中西 伸一	芦原町教育委員会	平成 4 年	1992
41	魯迅と藤野厳九郎	泉 彪之助	芦原町教育委員会	平成 5 年	1993
42	嫁威谷物がたり		金津町立図書館	平成 6 年	1994
43	ふる里の手帖	坂本 豊	金津町企画環境課	平成 6 年	1994
44	金津のいしぶみ 文学編	土屋 久雄		平成 6 年	1994
45	観音川今昔	金津町沢区	金津町沢区	平成 6 年	1994
46	吉崎御坊の歴史	朝倉 喜祐		平成 7 年	1995
47	富津区 50 年のあゆみ		芦原町富津区	平成 7 年	1995
48	金津町の文化財	金津町文化財保護委 員会	金津町（福井県）： 金津町教育委員会	平成 8 年	1996
49	金津町歴史街道整備プラン 平成 9 年度	金津町	金津町	平成 9 年	1997
50	吉崎の郷土誌	坂本豊・鉢木与之 寿・朝倉喜祐	金津町教育委員会	平成 11 年	1999
51	古代の製鉄遺跡	坂本 浩太郎	加越たたら研究会	平成 11 年	1999
52	本陣飾り物	金津町商工会「観光 部会・本陣飾り物振 興委員会」	金津町農林商工課・ 金津町商工会	平成 11 年	1999
53	熊坂区誌		熊坂区誌編集委員会	平成 12 年	2000
54	越前金津城主溝江家	土屋 久雄・溝江 伸康	全国溝江氏氏族会	平成 12 年	2000
55	北陸道Ⅰ・吉崎道 歴史の道調査報告書		福井県教育委員会	平成 13 年	2001

No.	書籍名	著者	出版者	発行年	
				和暦	西暦
56	福井県石造建造物調査報告書 神社編 1 (坂井郡)		若越建築文化研究所	平成 14 年	2002
57	金津町の歴史の道	朝倉 喜祐	金津町(福井県) : 金津町教育委員会	平成 14 年	2002
58	福井県の民俗芸能－福井県民俗芸能緊急 調査報告書－		福井県教育委員会	平成 15 年	2003
59	ふるさと芦原町 碑探訪	市村 敬二		平成 15 年	2003
60	龍雲寺史	伊藤 俊彦	龍雲寺	平成 16 年	2004
61	我が鎮守の社の眩き	斎藤 憲		平成 18 年	2006
62	あわら市の文化財		あわら市教育委員会	平成 22 年	2010
63	あわら市宮谷区誌	宮谷の歴史編集委員 会	あわら市宮谷区	平成 24 年	2012
64	金津祭の変遷	金津地区区長会特別 委員会「広報」	金津地区区長会	平成 25 年	2013
65	金津まつり	金津祭保存会		平成 27 年	2015
66	本荘春日神社本殿修理工事報告書	国京 克巳	本荘春日神社建設委 員会	平成 27 年	2015
67	福井県の祭り・行事 福井県祭り・行事 調査報告書		福井県教育委員会	平成 27 年	2015
68	あわらの古刹 御簾尾龍澤寺 宝物展		あわら市郷土歴史資 料館	平成 28 年	2016
69	あわら市の文化財補遺		あわら市教育委員会	平成 29 年	2017
70	あわらの殿様 多賀谷左近		あわら市郷土歴史資 料館	平成 29 年	2017
71	北潟村民誌		北潟歴史探訪の会	平成 30 年	2018
72	あわら市指定文化財 西国三十三力所観 世音 保存修復報告書		あわら市郷土歴史資 料館	令和 4 年	2022

表 5－3 あわら市内遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書

No.	書籍名	発行	発行年		備考
			和暦	西暦	
1	北陸自動車道路関係埋蔵文化財 瓦谷 2 号窯址発掘調査報告書 昭和 45 年度	福井県教育委員会	昭和 45 年	1970	
2	北陸自動車道路関係埋蔵文化財 瓦谷 3 号窯址発掘調査概要 昭和 46 年度	福井県教育委員会	昭和 46 年	1971	
3	文化財調査報告 第 21 集	福井県教育委員会	昭和 46 年	1971	横山古墳群
4	細呂木遺跡 2 号地点 1, 2 号製鉄炉発掘調査報 －図録編－	福井県教育委員会	昭和 47 年	1972	

No.	書籍名	発行	発行年		備考
			和暦	西暦	
5	坂井北部丘陵南縁に分布する 井江葭古墳群 －発掘調査報告－	芦原町教育委員会	昭和 48 年	1973	
6	文化財調査報告 第 24 集	福井県教育委員会	昭和 49 年	1974	櫛古墳
7	福井県埋蔵文化財調査報告第 2 集 重要遺跡緊急確認調査報告 (I) 昭和 52 年度	福井県教育委員会	昭和 53 年	1978	
8	伊井地区圃場整備事業に伴う発掘調査概要 (桑原遺跡)	金津町教育委員会	昭和 53 年	1978	
9	芦原町文化財調査報告第 2 冊 井江葭古墳群 (井江葭 10 号墳発掘調査報告書) 芦原町井江葭	芦原町教育委員会	昭和 56 年	1981	
10	福井県埋蔵文化財調査報告第 12 集 柴山崎遺跡 一般県道吉崎金津線住宅宅地関連公共施設整備促進事業に伴う調査	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	昭和 62 年	1987	
11	福井県埋蔵文化財調査報告第 14 集 下屋敷遺跡 堀江十楽遺跡 県営竹田川右岸地区土地改良事業に伴う調査	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	昭和 63 年	1988	
12	金津町埋蔵文化財調査報告書 清王 1・2 号古墳発掘調査報告書	金津町教育委員会	平成元年	1989	
13	芦原町文化財調査報告第 3 冊 横垣古墳群 －横垣 1 号墳発掘調査報告－	芦原町教育委員会	平成 3 年	1991	
14	金津町埋蔵文化財調査概要 平成元年～五年度	金津町教育委員会	平成 7 年	1995	多賀谷左近墓所、伊井遺跡、笹岡向山製鉄遺跡、熊坂釜跡、東田中遺跡、柿原古窯跡、桑野遺跡、南稻越遺跡、溝江館趾
15	金津町埋蔵文化財調査報告書第 1 集 高塚向山遺跡	金津町教育委員会	平成 8 年	1996	
16	福井県埋蔵文化財調査報告第 48 集 柴山崎遺跡Ⅱ 花乃杜ハイ ツ造営	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	平成 12 年	2000	
17	金津町埋蔵文化財調査報告第 2 集 遺跡発掘事前総合調査 －矢地山古墳群・細呂木窯跡・吉崎音部遺跡－	金津町教育委員会	平成 13 年	2001	
18	あわら市埋蔵文化財調査報告第 1 集 南稻越遺跡 －一級河川高間川統合河川整備事業に伴う調査－	あわら市教育委員会	平成 19 年	2007	
19	あわら市埋蔵文化財調査報告第 2 集 吉崎御坊跡 －国指定史跡保存修理事業報告書－	あわら市教育委員会	平成 20 年	2008	
20	福井県埋蔵文化財調査報告第 115 集 前谷遺跡 －県道中川松岡線道路改良事業に伴う調査－	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	平成 21 年	2009	

No.	書籍名	発行	発行年		備考
			和暦	西暦	
21	福井県埋蔵文化財調査報告第161集 関中遺跡 下関遺跡 金津新江ノ尻遺跡 ー県営かんがい排水事業 東江地区に伴う調査ー	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	平成28年	2016	
22	福井県埋蔵文化財調査報告第167集 樋山遺跡 細呂木阪東山遺跡 ー県営経営体育成基盤整備（ほ場）細呂木地区に伴う調査ー	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	平成31年	2019	
23	福井県埋蔵文化財調査報告第170集 御簾尾・東田中遺跡 ー国道8号福井バイパス建設事業に伴う発掘調査ー	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	平成31年	2019	
24	あわら市埋蔵文化財調査報告第3集 桑野遺跡	あわら市教育委員会	令和2年	2019	
25	福井県埋蔵文化財調査報告第186集 南稲越遺跡 ー北陸新幹線建設事業に伴う調査11ー	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	令和6年	2024	
26	あわら市埋蔵文化財調査報告第4集 市内製鉄遺跡発掘調査報告書 ー笹岡向山遺跡・細呂木遺跡ー	あわら市教育委員会	令和6年	2024	
27	福井県埋蔵文化財調査報告第191集 柿原熊ノ子遺跡 ー北陸新幹線建設事業に伴う調査15ー	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	令和7年	2025	
28	あわら市埋蔵文化財調査報告第5集 南稲越遺跡Ⅱ ー北陸新幹線関連機能補償・農道付け替えに伴う調査ー	あわら市教育委員会	令和7年	2025	

（２）保存・修復の現状

保存について、各文化財の所有者や管理団体が日常的な管理を継続的に実施しています。吉崎御坊跡（国指定、吉崎地区）では、あわら市が委託した地元の蓮如の里よしざき創成会が清掃などを含めた維持を実施しています。他にも多賀谷左近の墓（市指定、細呂木地区）は、多賀谷左近三経公奉賛会が保存に努めています。



写真５－１ 吉崎御坊跡の清掃活動の様子

収蔵施設について、博物館類似施設である市郷土歴史資料館が文化財を収蔵していますが、収蔵しきれない未整理の考古資料や民具は市内の空き施設で保管しています。

修復について、近年の状況は表５－４のとおりですが、これらは指定文化財に限られ、未指定については所有者任せになっており、状況を把握できていません。

表５－４ 近年の文化財保存・修復の実施状況

種別	文化財名	指定	実施状況	実施者	実施年	備考
建造物	伊井白山神社本殿	市	修復	伊井区	平成 13 年 (2001)	※修復後に市指定
	本荘春日神社本殿	県	修復	本荘春日神社建設委員会	平成 25 年 (2013) から 平成 27 年 (2015)	
	多賀左近三経石廟	市	復元	あわら市	平成 28 年 (2016)	※復元後に市指定
	西国三十三力所観世音	市	修復	宮前公文区	令和 3 年 (2021)	
彫刻	木造大日如来坐像	市	修復	安楽寺	令和 2 年 (2020)	
	木造薬師如来坐像	市	修復	安楽寺	令和 3 年 (2021)	※修復後に市指定
工芸品	朱銀振分伊予札二枚胴具足	市	修復	あわら市	平成 27 年 (2015)	
考古資料	福井県桑野遺跡出土品	国	修復	あわら市	令和 2 年 (2020)	
歴史資料	指中の板碑	市	覆屋設置	川口城址保存会	平成 26 年 (2014)	
史跡	多賀谷左近の墓	市	保存整備	柿原区	平成 28 年 (2016)	
	細呂木製鉄遺跡	市	覆屋設置	細呂木製鉄遺跡保存会	令和元年 (2019)	
	櫛古墳石室	県	立木伐採	櫛区	令和 3 年 (2021)	
	神宮寺城跡	市	保存整備	神宮寺城跡保存会	令和 4 年 (2022)	
天然記念物	社叢林（赤尾白山神社）	市	樹勢回復	赤尾区	平成 29 年 (2017)	
	ツバキ（本荘春日神社）	市	樹勢回復	本荘春日神社	平成 30 年 (2018)	
	社叢林（井江葎八幡神社）	市	樹木治療	井江葎区	令和 5 年 (2023)	

（３）公開・活用の現状

市郷土歴史資料館の常設展で、あわら市の歴史文化に関する資料を展示しています。例えば金津祭で飾られている本陣飾り物は毎年入れ替えながら展示しています。それ以外に、あわら市内の歴史文化を特集した特別展・企画展・テーマ展を年2回から3回開催し、様々な文化財を公開しています。令和元年（2019）以降の状況は表5-5のとおりです。

表5-5 市郷土歴史資料館の入館者数と企画展

年度	観覧者数	企画展・テーマ展
令和元年度 (2019)	5,516人 (市内36.8%、県内21.7%、県外38.5%、 海外3.0%)	企画展 あわらの祭(7/2から9/1) 企画展 桑野遺跡と北陸の縄文装身具(9/14から12/1) テーマ展 昔の道具と暮らし(R2・1/15から5/10)
令和2年度 (2020)	2,307人 (市内45.8%、県内17.9%、県外36.1%、 海外0.2%)	企画展 新型コロナウイルス対策のため中止 テーマ展 新収蔵品展(R2・10/27からR3・5/9)
令和3年度 (2021)	3,329人 (市内49.4%、県内27.0%、県外23.2%、 海外0.4%)	企画展 北潟湖ほとりの古代役所と塩づくり(7/6から8/29) 企画展 金津奉行と江戸時代の金津(9/18から11/14) テーマ展 ちょっと昔の米作りと道具たち(R4・1/12から5/8)
令和4年度 (2022)	4,363人 (市内34.8%、県内21.0%、県外43.8%、 海外0.4%)	企画展 あわらの古墳せいぞろい(7/2から8/28) 企画展 ずっと、道があった(9/17から11/13) テーマ展 新収蔵品展(R5・1/11から5/7)
令和5年度 (2023)	4,412人 (市内43.1%、県内22.1%、県外34.0%、 海外0.8%)	企画展 きて・みて！あわらのお宝展(R6・3/9から5/6) テーマ展 祈りの情景(7/8から8/27) テーマ展 郷土のいっぴん(10/7から11/19)

また、特別展・企画展では展示に関連した講演会を実施しているほか、あわら市内外の人々にあわら市の歴史文化を気軽に学んでもらうふるさと講座を年3回程度実施しています。

その他、文化財を活かした地域づくりを進めている団体があります。金津まちなか創成会は、国指定重要文化財の福井県桑野遺跡出土品（国指定、金津地区）の一つである垂飾を作る体験会を開催しています。劔岳地区振興協議会は、横山古墳群（県指定、坪江地区・劔岳地区）で、一番北にある城ヶ岳古墳までの道を整備し、見学希望者の案内をしています。神宮寺城跡保存会は、神宮寺城跡（市指定、細呂木地区）で、城跡内の整備に加え、火縄銃型エアガンの射撃体験などを取り入れて、積極的な観光客の呼び込みを行っています。



写真５－２ 神宮寺城跡での射撃体験の様子

その他、市内で活動する文化財関係団体は表５－６のとおりです。

表５－６ 文化財関係団体と活動の概要

団体名	活動内容
あわら市観光ガイド協会	あわら市内の歴史遺産の紹介とガイド活動
あわらの自然を愛する会	北潟地区・波松地区を中心とした植生の調査保護と、自然観察会などを実施
伊井の歴史を学ぶ会	伊井地区の歴史文化を中心とした調査研究および啓発活動
金津まちなか創成会	金津市街を訪れた観光客への歴史、文化、産業等のガイド活動とＰＲ（絵看板の設置）を実施
川口城址保存会	「指中の板碑」（市指定、細呂木地区）と「川口城跡（神宮寺城跡）」（埋蔵文化財包蔵地（一部市指定）、細呂木地区）の保存活動
北潟歴史探訪の会	北潟地区の歴史文化を中心とした調査研究活動
北潟地区創成会	北潟地区のガイドマップの製作、観光客へのガイド実施
劔岳地区振興協議会	劔岳地区を中心とした歴史文化の啓発活動
古文書翻刻グループ	市内古文書の翻刻活動

団体名	活動内容
神宮寺城跡保存会	「神宮寺城跡」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と、啓発活動（講演会、リーフレット製作）
多賀谷左近三経公奉賛会	「多賀谷左近の墓」（市指定、細呂木地区）、「多賀谷左近三経石廟 附供養五輪塔」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と多賀谷左近三経公の啓発活動（講演会、出版）
たたら製鉄遺跡保存会	「細呂木製鉄遺跡」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と古代製鉄体験会の開催、啓発活動（リーフレット製作）
細呂木地区創成会	細呂木地区の歴史遺産への案内板設置、ガイドマップの製作、観光客へのガイド実施
吉崎ガイドクラブ	「吉崎御坊跡」（国指定、吉崎地区）及び周辺の歴史遺産のガイド活動
蓮如の里よしざき創成会	「吉崎御坊跡」（国指定、吉崎地区）の保存と、史跡のガイドを実施

第3節 文化財の保存・活用の課題

あわら市の文化財の状況を踏まえ、文化財の保存・活用に関する課題は次のとおりです。

(1) 調査・研究の課題

- ①あわら市では、建造物や美術工芸品などの分野の把握調査が不足しているので、それらの把握調査が必要です。
- ②①で把握されたものから、価値の高いものは指定等文化財の候補とし、指定に向けて専門家を交えた学術調査を進めることが必要です。

(2) 保存・継承の課題

- ③文化財について所有者や管理団体が保存・管理に努めていますが、地域の担い手の減少により、未来への継承について懸念があるため、継承者育成が必要です。
- ④文化財所有者は、保存方法や適切な保存にかかる費用の確保について懸念があるため、保存していくための知識的・技術的支援や、財政的支援の拡充が求められます。
- ⑤未指定文化財は、市民に文化財としての価値が認識されていないことが多いため、未指定でも文化財の価値があることについて周知するための制度が必要です。
- ⑥文化財が災害や盗難等の被害にあわないために、防災や防犯に対する設備の拡充支援が必要です。また、万が一の事態に備えた文化財の記録作り及びそのデータベース化が必要です。
- ⑦吉崎御坊跡（国指定、吉崎地区）について、本堂跡は指定されていますが、本堂跡と一体となって寺内町を形成した多屋跡は未指定のため、今後の保存に向けた取り組みが必要です。
- ⑧横山古墳群（県指定、坪江地区・劔岳地区）は、群集墳としての価値が非常に高いのに対して、史跡指定範囲は古墳群の南北の一部に限られているため、史跡指定地外の保存が求められます。

(3) 公開・活用の課題

- ⑨一部の文化財関係団体で行っている文化財を活用する取り組みが、あわ

ら市内の多くの文化財関係団体でも行われることが望まれます。

⑩文化財の情報発信が少なく、あわら市内外の人が文化財の情報を得られていないため、情報発信を多様にし、様々な年代の人が文化財の情報を得られる仕組みづくりが必要です。

⑪指定等文化財の説明板は、来訪者へ魅力を伝えるために更新をしていますが、まだ更新できていないものや、未指定に関する説明板は手付かずになっており、それらの整備が必要です。また、既設の説明板の内容はわかりにくいため、既設の更新や新設の際には来訪者にとってわかりやすいものとなるよう、内容の検討が必要です。

⑫観光分野と文化財の連携が十分ではありません。

第4節 基本方針に関する方針と保存・活用の事業

第5章第1節で整理した3つの基本方針に基づき、それぞれに事業を計画・実施することで、基本理念である「あわら市の文化財を保存・活用して地域を活性化し、みんなで文化財を未来へ継承する」を実現します。

文化財を保存・活用するためには多様な主体の参画が必要になります。そのため、行政が実施する事業だけでなく、多様な主体が実施する保存・活用の事業も市地域計画で記載します。

実施期間は、第1章第3節で記載のとおり10年とし、前期と後期の2期に分けます。

事業の実施は、基本方針に則りますが、市政や地域の状況を見極めながら進めます。

事業を推進するために必要な財源は、市費のほか、国費（文化財補助金、新しい地方経済・生活環境創生交付金など）、県費などの補助金等を活用します。その他、民間資金やクラウドファンディングなどによる財源調達についても活用を検討します。

（1）基本方針1 調査・研究に対する方針と事業

調査・研究に対する方針

①建造物や美術工芸品などの分野の文化財の把握調査を進めます。

②①で把握したものから、価値の高いものは専門家を交えた学術調査を行います。

表 5－7 基本方針 1 に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
①	各地区の未指定文化財把握調査事業	継続	市 専門家										
	建造物や美術工芸品などの分野の未指定文化財の把握調査を各地区で実施し、文化財の掘り起こしに努めます。												
②	把握された文化財の学術調査事業	継続	市 専門家										
	把握されたものの中で、特に重要と思われるものは専門家を交えた学術調査を実施します。												








(2) 基本方針 2 保存・継承に対する方針と事業

保存・継承に対する方針

- ③文化財を未来へ継承するため、継承者育成を行います。
- ④文化財所有者に対して、保存していくための知識的・技術的支援や、財政的支援の拡充を検討します。
- ⑤未指定文化財の価値を周知するための制度を検討します。
- ⑥指定等文化財について、被害を最小限にできるよう、文化財所有者・管理者が防災や防犯に対する設備の設置を進めるとともに、行政は対策に関する指導・助言や防災や防犯設備の設置に関する財政的支援等を行います。また、万が一の事態に備えデータベースを作成します。
- ⑦本堂跡と一体となって寺内町を形成した多屋跡について学術調査を行い、指定を目指します。
- ⑧横山古墳群の史跡指定範囲を広げ、今後も保存・活用を図ります。

表 5－8 基本方針 2 に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
③ － 1	文化財継承者育成事業	継続	市										
	文化財の継承者を育成するため、学校への出前授業や地域への出張講座を積極的に開催します。												

③ － 2	文化財公開事業	継続	市												
	地域の文化財に親しむ機会を増やすため、第4節（1）①で把握した文化財を地区の公民館祭等で公開します。														
④	所有者支援事業	新規	市												
	文化財の保存方法支援のため、地区の公民館祭で展示を実施するときに保存に関する相談会を開きます。財政的支援については、補助制度の拡充を検討します。民間などの助成を活用できるよう所有者に案内するとともに、申請書類作成支援を行います。														
⑤	未指定文化財認定事業	新規	市												
	未指定の文化財のうち、市民が大事だとする文化財について、あわら市独自の認定制度を設けます。														
⑥ － 1	防災や防犯設備整備事業	新規	市 地域												
	指定等文化財の建造物や収蔵施設の防災や防犯対策に一部費用の補助を行います。														
⑥ － 2	データベース作成事業	継続	市												
	災害や盗難でのき損や散逸に備えるため、市内文化財のデータベースを作成します。														
⑦	吉崎御坊跡学術調査事業	新規	市												
	多屋跡の歴史的な重要性を明らかにするために学術調査を実施し、調査内容を基に追加指定を目指します。														
⑧	横山古墳群保存・活用事業	新規	市												
	史跡指定範囲を広げるにあたり、所有者の同意が必要なため、所有者の把握を行います。														

（3）基本方針3 公開・活用に対する方針と事業

公開・活用に対する方針

⑨先行している文化財関係団体の文化財に対する活用の取り組みを、共有する仕組みを検討します。

⑩市民や来訪者があわら市の文化財を知ることができる情報源を整備しま

す。また、様々な年代の人に文化財を知ってもらうための情報発信の方法を検討します。

⑪文化財説明板の更新や新設を行います。また、来訪者にとってわかりやすい内容となるよう、検討します。

⑫文化財を観光コンテンツの一つと考え、観光分野と連携して必要な施設の整備や人材育成を行います。

表 5－9 基本方針 3 に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
⑨	文化財関係団体交流事業	新規	市 関係団体										
	文化財関係団体の交流会を開催し、それぞれが持っている文化財の情報の提供、保存・継承に関する課題解決や、活用のアイデアを共有できるようにします。												
⑩ － 1	デジタルアーカイブ整備事業	新規	市										
	市民や来訪者が市内の文化財を気軽に知ることができるよう、デジタルアーカイブの整備を進めます。												
⑩ － 2	SNS 情報発信事業	継続	市										
	SNS 等での情報発信を行い、あわら市内の歴史や文化の魅力を多くの世代に知ってもらえるよう努めます。												
⑪	文化財説明板整備事業	継続	市										
	あわら市内にある文化財説明板の更新や、新設を行います。また、来訪者にとってわかりやすい内容を検討します。												
⑫	文化財の観光活用事業	新規	市 (観光課を含む) 地域										
	文化財を観光コンテンツの一つと捉え、必要な施設の整備や人材育成など、観光客の受入れ体制を整え、観光振興に努めます。												

第6章 文化財の総合的な保存・活用の取り組み

第1節 関連文化財群の設定の考え方

関連文化財群とは、指定・未指定に関わらず有形・無形の多種多様な文化財を、歴史文化の特性に基づく関連性に沿って、一定のまとまりで捉えたものです。あわら市の歴史的・文化的な関連性に基づき設定し、必ずしも連続した空間や区域を伴うとは限りません。

関連文化財群の設定の考え方は以下のとおりです。

- (1) 歴史文化の特性に基づき、その魅力を次世代へ伝えるものであること。
- (2) 市民などが共感し、歴史文化を礎としたまちづくり活動につながる内容・構成となること。
- (3) 市民や団体による活動と関連を持ち、そこで生活する市民が大切にしている文化財を含むものとする。
- (4) 市外からの来訪者にアピールでき、あわら市内の観光等の向上につながる内容や構成であること。

上掲の考え方を基に、第4章で示した歴史文化の特性を反映し、あわら市の歴史文化を物語る上で欠かせない要素である主な文化財の集まりを関連文化財群として、次のとおり設定しました。

表 6－1 歴史文化の特性と関連文化財群の設定

歴史文化の特性		関連文化財群		核となる文化財
(1) 低山地に分布する横山古墳群などの群集墳	⇒	①継体天皇と関連する北陸最大級の横山古墳群と低山地に分布する群集墳	⇒	横山古墳群 櫛古墳（石室） 矢地山古墳群
(2) 交流と文化を生み出した多様な道～旧北陸道・竹田川・日本海～	⇒	②旧北陸道・水運・海運が交わる交通の要衝で育まれた交流と歴史	⇒	福井県桑野遺跡出土品 千束一里塚 岩崎観音群
(3) 加越山地・坂井平野・北潟湖・日本海が育んだ生業	⇒	③多様な地形で営まれた生産業	⇒	本荘春日神社本殿 細呂木製鉄遺跡 滝瓦 伊井白山神社本殿
(4) 市内に広がる興福寺の荘園と、それを守った堀江氏・溝江氏・武曾氏ら国衆	⇒	④現在の田園風景の基礎となった荘園と国境の戦乱から守った国衆の城館群	⇒	大連三郎左衛門家文書 多賀谷左近の墓 神宮寺城跡
(5) 地域に根付く厚い信仰と祭り	⇒	⑤地域を結び付ける信仰と祭り	⇒	吉崎御坊跡 北潟古謡どっしゃどっしゃ 石造狛犬（永正十二年銘） 金津祭
(6) 芦原温泉と温泉文化	⇒	⑥平地に開湯した温泉地「芦原温泉」	⇒	芦原温泉春祭 温泉発祥地公園 田中々薬師神社 二面薬師堂 舟津薬師堂 天爵大神関係資料

第2節 関連文化財群と構成文化財

ここでは各関連文化財群と構成文化財を説明します。

関連文化財群① 継体天皇と関連する北陸最大級の横山古墳群と低山地に分布する群集墳

【概要】あわら市の古墳は、坂井平野を見下ろす低山地に群集墳が点在しているのが特徴です。弥生時代中期に始まった米作りにより、地域の生産力が向上し、豪族が成長したことで、多くの古墳が築造されました。

【ストーリー】劔岳地区と坪江地区にまたがる**横山古墳群**は、古墳総数が300基を超える北陸最大数の古墳群です。これらは継体天皇を支えた一族の墳墓と考えられ、歴史的な価値が非常に高いものです。中でも最大の神奈備山古墳は嶺北北部地域における最後の大首長墓と考えられています。



写真6-1 櫛古墳（県指定）

石室内に入ることができ、奥壁には中世に彫られた梵字と五輪塔が見られます。

また、劔岳地区の大型円墳である

櫛古墳は石室が開放されていて中を見学できる貴重な古墳です。

表6-2 関連文化財群①の構成文化財

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
1	横山古墳群	記念物（遺跡）	県指定	坪江、劔岳	
2	櫛古墳（石室）	記念物（遺跡）	県指定	劔岳	
3	横垣古墳群	記念物（遺跡）	未指定	山方里方	
4	横穴や七ツ塚	記念物（遺跡）	未指定	金津	
5	八皇子山古墳群	記念物（遺跡）	未指定	伊井、坪江	
6	矢地山古墳群	記念物（遺跡）	未指定	伊井	
7	鎌谷窯跡群	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	須恵器及び埴輪製作
8	清王古墳群	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
9	陣の穴	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
10	山室の古墳	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
11	山室の横穴	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
12	山西方寺の横穴	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	

関連文化財群② 旧北陸道・水運・海運が交わる交通の要衝で育まれた交流と歴史

【概要】あわら市は日本海の水運、竹田川や観音川の水運、市内を縦貫する旧北陸道などの陸運と、多様な通行手段が交わる交通の要衝で、外との交流が盛んでした。市内各所に交通や交流の歴史を語る文化財が伝わっています。

【ストーリー】**福井県桑野遺跡出土品**は、縄文時代は海に面していた遺跡から出土したもので、海外の石材で作られた遺物を含む貴重な資料です。

日本海側の交通は、江戸時代に北潟地区や吉崎地区に北前船の船主がおり、交易を行っていました。

旧北陸道は奈良時代に設置され、ルートを変更しながら、都と北陸地方を結びました。その旧北陸道と水運が盛んだった竹田川が交わる場



写真 6-2 千束一里塚（県指定）

旧北陸道の現存する一里塚の中では、一番立派な榎が現存しています。

所にある金津宿は、平安時代末からその名が見られ、旧北陸道を通行する人々を迎えてきました。江戸時代に福井藩が旧北陸道を整備し、**千束一里塚**や細呂木関所などを設置しました。このほかに、加賀国大聖寺と金津を、牛ノ谷峠を越えて結ぶ市街道など、加賀国と複数の交通路がありました。

表 6-3 関連文化財群②の構成文化財

No.	名称	種別・種別	指定等	地区	備考
1	福井県桑野遺跡出土品、石器・石製品 85 点	有形文化財（美術工芸品（考古資料））	国指定	金津	重要文化財
2	千束一里塚	記念物（遺跡）	県指定	金津	
3	仲仕組創立記念之碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	市指定	金津	
4	雨夜塚	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	市指定	金津	金津宿の姫川吟社の句碑
5	坂ノ下宿場口跡	記念物（遺跡）	市指定	金津	
6	旧北陸道	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	
7	細呂木関所跡	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	
8	大鳥神社の大銀杏	記念物（動物・植物・地質鉱物）	市指定	金津	

No.	名称	種別・種別	指定等	地区	備考
9	岡ノ下鉄道暗橋	有形文化財（建造物）	未指定	細呂木	
10	細呂木橋	有形文化財（建造物）	未指定	細呂木	
11	京都までの距離表示石	有形文化財（建造物）	未指定	吉崎	
12	開田橋	有形文化財（建造物）	未指定	吉崎・北潟	
13	潮止め堤防	有形文化財（建造物）	未指定	吉崎・北潟	
14	瓶花図	有形文化財（美術工芸品（絵画））	未指定	金津	
15	南無阿弥陀仏の道標	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	坪江	
16	岩崎観音群	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	吉崎	
17	金津権三国長の脇差と槍	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	金津	
18	金津文人交張屏風	有形文化財（美術工芸品（書跡・典籍））	未指定	金津	
19	金蘭小集	有形文化財（美術工芸品（書跡・典籍））	未指定	金津	
20	北前船関連文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	市全域	
21	石灯籠	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	北潟	文政 12 年
22	平本良充・平本良郷墓	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	北潟	
23	「右京通」の石標	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	金津	
24	渥美奉行の墓	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	金津	
25	笹岡玄察墓	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	金津	
26	北陸立行司の石碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	金津	
27	おかご坂の石碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	坪江	
28	駐輦記（紀）念碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	坪江	
29	天皇陛下御小休所跡の記念碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	坪江	
30	明治天皇御小休所ノ 記碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	坪江	
31	ローラー第 18 号	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	坪江	
32	往来安全の名号塔	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	細呂木	
33	浜坂番所	記念物（遺跡）	未指定	北潟	
34	見当山	記念物（遺跡）	未指定	北潟	
35	金津宿	記念物（遺跡）	未指定	金津	
36	金津奉行所	記念物（遺跡）	未指定	金津	
37	高札場	記念物（遺跡）	未指定	金津	

No.	名称	種別・種別	指定等	地区	備考
38	丸岡藩牛ノ谷口留番所跡	記念物（遺跡）	未指定	坪江	
39	風谷峠	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	
40	権世市野々番所跡	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	
41	往還一里塚	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
42	女坂	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
43	蔵崎の渡し	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
44	嶋谷山の切通	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
45	大門岬	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
46	盗人坂	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
47	鋸坂	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
48	細呂木宿場	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
49	嫁威茶屋	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
50	旧道	記念物（遺跡）	未指定	市全域	
51	汐越の松	記念物（動物・植物・地質鉱物）	未指定	北潟	

関連文化財群③ 多様な地形で営まれた生業

【概要】あわら市の北西部に北潟湖があり、湖の北は日本海に繋がります。東部は劔ヶ岳などの山岳地帯、北部は加越台地が、南部は坂井平野があります。このような多様な地形の上に、古墳時代の玉造、古代の製鉄、江戸時代の瓦作りなど様々な生業が営まれ、関連する文化財が伝わっています。

【ストーリー】古墳時代は、伊井地区で緑泥石を使った玉造が盛んでした。

古代は、重要な産業だった製鉄が細呂木地区の**細呂木製鉄遺跡**で行われました。このほか、北潟湖周辺で製塩が、細呂木地区で須恵器の生産が、劔岳地区で古代瓦の生産が行われました。古代のあわら市内は生産業が盛んな場所でした。

江戸時代の18世紀後半に、細呂木地区で、瓦の生産をはじめました。赤茶色の釉薬を塗ることで寒さに強い瓦となり、赤瓦と呼ばれ、北前船によって日本海側の各地に運ばれ重宝されました。

伊井地区には、宮大工集団の**伊井大工**がいました。伊井地区にある伊井白山神



写真6-3 伊井白山神社本殿
(県指定文化財)

文化3年(1806)に、地元の伊井大工によって建てられました。

社本殿など、坂井郡の寺社建築の多くに携わりました。

このほか、北潟湖には、江戸時代に行われた牡蠣の養殖や、現代にも伝わるツキアミ漁で行う寒鮎漁、波松地区には地引網漁などがあり、水産業が盛んな地域でした。

表 6－4 関連文化財群③の構成文化財

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
1	伊井白山神社本殿 附棟札 3 枚	有形文化財（建造物）	県指定	伊井	
2	本荘春日神社本殿	有形文化財（建造物）	県指定	本荘	
3	輪転経蔵	有形文化財（建造物）	市指定	本荘	
4	細呂木製鉄遺跡	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	
5	柿原窯跡	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	
6	船小屋	有形文化財（建造物）	未指定	波松	
7	白髭神社石祠	有形文化財（建造物）	未指定	波松	石造仏
8	白髭神社石祠	有形文化財（建造物）	未指定	波松	石造恵比寿像
9	白髭神社石祠	有形文化財（建造物）	未指定	波松	石造恵比寿像
10	白髭神社石祠	有形文化財（建造物）	未指定	波松	石造恵比寿像
11	伊井太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	伊井	文政 6 年
12	桑原太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	伊井	近年改築
13	矢地太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	伊井	明治 34 年
14	熊坂太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	坪江	明治 36 年
15	滝太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	細呂木	明治 38 年
16	指中太子堂	有形文化財（建造物）	未指定	細呂木	明治 34 年
17	船絵馬	有形文化財（美術工芸品（絵画））	未指定	波松	
18	検見の村絵図	有形文化財（美術工芸品（絵画））	未指定	細呂木	
19	船絵馬	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	波松	
20	滝瓦	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	細呂木	江戸時代以降の瓦作り
21	古代瓦	有形文化財（美術工芸品（考古資料））	未指定	劔岳	
22	製茶場碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	細呂木	
23	越前瓦の製作技術	無形文化財（工芸技術）	未指定	細呂木	
24	テンコブネ（小舟のこと）	民俗文化財（有形の民俗文化財）	未指定	北潟	
25	テンコロオアミ（刺し網の一種）	民俗文化財（有形の民俗文化財）	未指定	北潟	
26	捕鯨鮫と書かれた箱（松下家）	民俗文化財（有形の民俗文化財）	未指定	北潟	
27	金津箕	民俗文化財（有形の民俗文化財）	未指定	金津	

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
28	かし網（地曳網の方言）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	北潟	
29	かし網＝地引網	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	北潟	
30	柴漬（漁法・北潟湖では松枝を使用）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	北潟	
31	柴浸漁（ツキという）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	北潟	北潟湖
32	網元をアドヤという	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	—	
33	コンカ（浮塵子・うんかの方言）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	—	
34	伊井遺跡	記念物（遺跡）	未指定	伊井	玉作り遺跡
35	鉛鉱山跡	記念物（遺跡）	未指定	坪江	
36	瓦谷窯跡	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	古代瓦窯跡
37	櫛石の石切場	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	
38	権世石（採石場）	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	
39	劔岳鉱山	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	
40	細呂木阪東山遺跡	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	製塩遺跡

関連文化財群④ 現在の田園風景の基礎となった荘園と国境の戦乱から守った国衆の城館群

【概要】あわら市の平野部に広がる田園風景は、古代の桑原荘や、中世の河口荘・坪江荘の開発によって形作られました。これらの荘園で武曾氏などの国衆が力をつけ、戦国時代には城館を構えて国境の戦乱から地域を守りました。これら荘園や国衆に関連する文化財が伝わっています。

【ストーリー】伊井地区は東大寺領桑原荘があった所で、古代荘園として著名です。古代北陸道の駅として桑原駅が置かれていました。

平安時代に、白河法皇が春日神社に寄進した河口荘（本荘地区、新郷地区、金津地区、細呂木地区、吉崎地区にまたがる）が設置されました。河口荘は十郷で形成され、それぞれに春日神社が勧請され、その中心が本荘地区にある本荘春日神社です。また、その十郷を潤すために開発された十郷用水は現在でも使われ、本荘地区を中心とした田園を支えています。

鎌倉時代に、後深草上皇が興福寺に坪江荘（山方里方地区、北潟地区、伊井地区、劔岳地区にまたがる）を寄進しました。坪江荘由来の地名が現在に伝わっています。

興福寺の荘園の中から堀江氏、溝江氏、**武曾氏**などの国衆たちが頭角を現していきました。

堀江氏は、山方里方地区・本荘地区・新郷地区を中心とした国衆で、室町時代後期は堀江公番田館跡（市指定、山方里方地区）辺りが本拠地でした。溝江氏は、越前国の戦国大名である朝倉氏と関係が深く、金津を本拠地とし、現在も金津城溝江館跡（市指定、金津地区）があります。武曾氏は、



写真 6-4 絹本著色武曾信濃守勝融像
（県指定）

日向一揆との戦いで活躍した武曾勝融の肖像画 守勝融像（県指定、劔岳地区）が伝わっています。

市内には、戦国時代において最大の敵であった加賀国一向一揆に備えるため、**神宮寺城跡**（細呂木地区）などの山城が、交通の要衝となる場所に築かれていました。

表 6-5 関連文化財群④の構成文化財

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
1	本荘春日神社本殿	有形文化財（建造物）	県指定	本荘	
2	絹本着色武曾信濃守勝融像	有形文化財（美術工芸品（絵画））	県指定	坪江	
3	多賀谷左近三経石廟 附供養五輪塔	有形文化財（建造物）	市指定	細呂木	
4	漆塗椀	有形文化財（美術工芸品（考古資料））	市指定	伊井	
5	溝江家家紋入旗幟	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	市指定	金津	
6	大連三郎左衛門家文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	市指定	本荘	
7	朱銀振分塗伊予札二枚胴具足 壱領	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	市指定	金津	
8	堀江公番田館跡	記念物（遺跡）	市指定	山方里方	
9	金津城溝江館跡	記念物（遺跡）	市指定	金津	
10	神宮寺城跡	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	
11	多賀谷左近の墓	記念物（遺跡）	市指定	細呂木	

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
12	ツバキ	記念物（動物・植物・地質鉱物）	市指定	本荘	
13	沢・春日神社の大杉	記念物（動物・植物・地質鉱物）	市指定	細呂木	
14	鉄笛	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	伊井	
15	安養院文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	山方里方	
16	大連彦兵衛家文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	本荘	
17	御前神社文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	新郷	
18	楠公鉄笛之記	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	伊井	
19	沢区有文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	細呂木	
20	溝江館跡の石塔	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	金津	
21	本庄氏の館	記念物（遺跡）	未指定	本荘	
22	館屋敷（館垣内）	記念物（遺跡）	未指定	伊井	
23	東大寺領桑原庄	記念物（遺跡）	未指定	伊井	
24	武曾氏館跡	記念物（遺跡）	未指定	伊井	
25	武曾信濃守の墓	記念物（遺跡）	未指定	坪江	
26	沢の大杉にある池	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
27	多賀谷左近三経居館跡	記念物（遺跡）	未指定	細呂木	
28	吉崎寺内町	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	
29	興福寺領坪江荘	記念物（遺跡）	未指定	山方里方、北潟、金津、伊井、坪江、劔岳	
30	興福寺領河口荘	記念物（遺跡）	未指定	本荘、新郷、金津、細呂木、吉崎	
31	櫛山城跡	記念物（遺跡）	未指定	劔岳	

関連文化財群⑤ 地域を結び付ける信仰と祭り

【概要】あわら市には多様な信仰が根付いています。浄土真宗の中興の地である吉崎御坊があり、あわら市内 66 か寺の 8 割が浄土真宗系の寺院で、報恩講などの行事が地域で行われています。また、金津祭や北潟祭など、各地区の神社で例祭が受け継がれています。

【ストーリー】室町時代に北陸布教のためやってきた浄土真宗本願寺の蓮如は、吉崎御山に坊舎を建立しました。多くの人々に布教し、現在でも北陸地方が真宗王国と呼ばれる基を築きました。吉崎御山は現在、国指定の史跡 **吉崎御坊跡** として保護されています。

石川県・岐阜県・福井県にまたがり、日本三名山に数えられる霊峰白山の信仰

は、開山の泰澄に関係するものが伝わっています。北潟地区の安楽寺は泰澄が開基したとの伝承があり、**執金剛神像**をはじめ、多くの文化財が伝わっています。このほかにも各地区に泰澄作といわれる仏像が伝わっています。

地区の神社では、今も春や秋の例祭が行われ、地区の絆を深めています。金津地区の**金津祭**は、神輿と人形山車が金津地区の各区をまわります。地元の人々は神様の休憩所として「本陣」を構え、そこに日用品で造形物を作る「本陣飾り物」を置いて神様をもてなします。北潟地区の**北潟祭**は、安楽寺から神輿が出発し、八雲神社の神を迎えて北潟地区内を巡るもので、神仏習合を色濃く残す貴重なお祭りです。



写真 6－5 北潟祭

安楽寺から神輿が出発する様子。北潟地区内をめぐり、最後も安楽寺に帰ってきます。

表 6－6 関連文化財群⑤の主な構成文化財

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
1	吉崎御坊跡	記念物（遺跡）	国指定	吉崎	
2	木造執金剛神像（吽像）	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	県指定	北潟	
3	龍澤寺文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	県指定	坪江	
4	北潟古謡どっしやどっしや	民俗文化財（無形の民俗文化財）	県指定	北潟	
5	西国三十三ヵ所観世音	有形文化財（建造物）	市指定	新郷	
6	念力門（本願寺吉崎別院）	有形文化財（建造物）	市指定	吉崎	
7	絹本着色親鸞聖人像	有形文化財（美術工芸品（絵画））	市指定	金津	
8	阿弥陀如来立像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	本荘	
9	薬師如来立像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	本荘	
10	十一面観世音菩薩立像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	新郷	
11	天部立像（2体）	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	北潟	
12	木造薬師如来坐像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	北潟	
13	銅造千手観音立像附模造千手観音立像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	坪江	
14	阿弥陀如来座像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	釧岳	
15	石造不動明王二童子像及び八大龍王像 附 新石造不動明王像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	市指定	細呂木	
16	願慶寺文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	市指定	吉崎	
17	金津祭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	市指定	金津	

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
18	神宮寺の石塔	有形文化財（建造物）	未指定	細呂木	
19	吉崎西別院	有形文化財（建造物）	未指定	吉崎	
20	吉崎東別院太鼓楼	有形文化財（建造物）	未指定	吉崎	
21	宗教画	有形文化財（美術工芸品（絵画））	未指定	市全域	
22	岩崎観音群	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	吉崎	
23	越前狛犬	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	市全域	
24	石造仏	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	市全域	
25	宗教彫刻	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	市全域	
26	神輿	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	北潟	
27	肉付きの面	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	吉崎	願慶寺
28	肉付きの面	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	吉崎	吉崎寺
29	名号	有形文化財（美術工芸品（書跡・典籍））	未指定	市全域	
30	親鸞聖人の歌碑	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	細呂木	
31	一字一石墳	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	吉崎	
32	本光坊の墓	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	吉崎	
33	吉崎浦絵図	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	吉崎	
34	吉崎御坊絵図	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	吉崎	
35	北潟祭（天王講祭）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	北潟	
36	浄土真宗関係行事	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	坪江	
37	地藏祭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	坪江、細呂木	
38	刈りんて	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	劔岳	
39	雨乞祭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	細呂木	
40	御影道中	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	吉崎	
41	吉崎神楽	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	吉崎	
42	蓮如踊り（しゃしゃむしゃ踊り）	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	吉崎	
43	神社例祭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	市全域	
44	畝畦寺跡	記念物（遺跡）	未指定	坪江	
45	経塚山	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	
46	見玉尼の墓	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	
47	多屋九坊跡	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	
48	馬場大路跡	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	
49	藪の越小路	記念物（遺跡）	未指定	吉崎	

関連文化財群⑥ 平地に開湯した温泉地「芦原温泉」

【概要】明治時代に温泉が湧き出たことで、田畑や荒れ地が温泉街となりました。あわら市の代名詞となった芦原温泉は地域にとって大切な場所で、開湯からの発展の歴史を語る文化財が伝わっています。

【ストーリー】芦原温泉は明治 16 年（1883）に、山方里方地区で灌漑用の井戸を掘ったところ、お湯が湧出したのが始まりで、その場所は現在**温泉発祥地公園**となっています。初めて温泉が出た場所は 4 か村の境で、各村が競って温泉開発を行った結果、76 本もの源泉が湧出しました。開湯当初は、温泉を開発した村の名前から、田中温泉・二面温泉・舟津温泉と呼ばれていましたが、後に温泉街の中心あたりの地名から、芦原温泉といわれるようになりました。現在、温泉地区に田中温泉区・二面温泉区・舟津温泉区があるのは開湯当初の名残です。



写真 6－6 明治時代末の芦原温泉
（北より）

舟津春日神社付近から撮影したもの。当時の周辺は一面田畑だったことがよくわかります。

周囲が田畑や荒れ地だった芦原温泉には、実用的な交通路がありませんでした。そこで、明治 21 年（1888）に温泉街と旧坂井郡春江町針原を結ぶ福井新道（現県道 5 号・芦原街道）を作ることになり、その工事を、当時このあたりの道路建設で活躍していた「天爵大神」こと水谷忠厚に依頼して実施しました。水谷忠厚は元尾張藩士で、周囲の人を巻き込みながら圧倒的な行動力で事業をすすめ、道路を完成させました。

温泉地区には薬師如来に所縁のある 2 堂 1 社があり、「お薬師さん」と親しみを込めて呼ばれています。これらは温泉地区の人々が、温泉の発展と湯治客に効験がある事を念じて勧請したものです。お薬師さんの祭りとして芦原温泉春祭があります。始まりは、明治時代末から大正時代初めで、神輿の渡御をはじめ、人形山車、花山車、太鼓山車など多彩な山車が出ています。特に花山車の中では芸妓が華やかなお囃子を奏で、芦原温泉街ならではの祭の風情を演出しています。

表 6－7 関連文化財群⑥の構成文化財

No.	名称	類型・種別	指定等	地区	備考
1	藤野巖九郎記念館（旧藤野家住宅主屋）	有形文化財（建造物）	国登録	温泉	
2	杉田定一別荘	有形文化財（建造物）	未指定	温泉	
3	田中々薬師神社	有形文化財（建造物）	未指定	温泉	
4	二面薬師堂	有形文化財（建造物）	未指定	温泉	
5	舟津薬師堂	有形文化財（建造物）	未指定	温泉	
6	杉田定一石像	有形文化財（美術工芸品（彫刻））	未指定	温泉	
7	芦原焼	有形文化財（美術工芸品（工芸品））	未指定	温泉	
8	下番区有文書	有形文化財（美術工芸品（古文書））	未指定	本荘	温泉関係文書を含む
9	天爵大神関係資料（資料館寄託）	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	温泉	
10	噴水の鶴	有形文化財（美術工芸品（歴史資料））	未指定	温泉	
11	芦原温泉春祭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	温泉	
12	芦原節	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	温泉	
13	芦原音頭	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	—	
14	あわら節	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	—	
15	子どもみこし	民俗文化財（無形の民俗文化財）	未指定	温泉	
16	温泉発祥地公園	記念物（遺跡）	未指定	温泉	
17	芦原温泉	記念物（動物・植物・地質鉱物）	未指定	温泉	
18	連理木	記念物（動物・植物・地質鉱物）	未指定	山方里方	

第3節 関連文化財群に関する保存・活用の事業

関連文化財群① 継体天皇と関連する北陸最大級の横山古墳群と低山地に分布する群集墳

(1) 課題

- ア. 横山古墳群（県指定、坪江地区・劔岳地区）は、群集墳としての価値が非常に高いのに対して、史跡指定範囲は古墳群の南北の一部に限られているため、史跡指定地外の部分の保存が求められます。
- イ. 県内有数の古墳数があるにもかかわらず、市民の古墳群に対する関心がそれほど高くないことが課題です。

(2) 方針

- ア. 横山古墳群の史跡指定範囲を広げ、今後も保存・活用を図ります。
- イ. 市民があわら市内の古墳群に興味を持つよう古墳の魅力を発信します。

(3) 保存・活用の事業

表6-8 関連文化財群①に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期						
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17		
ア	横山古墳群保存・活用事業	新規	市 近隣 自治体												
	史跡指定範囲を広げるにあたり、所有者の同意が必要なため、所有者の把握を行います。														
イ	古墳の魅力発信事業	新規	市												
	市民があわら市内の古墳群に興味を持つよう、古墳の見学会を開催します。														

関連文化財群② 旧北陸道・水運・海運が交わる交通の要衝で育まれた交流と歴史

(1) 課題

- ア. あわら市を代表する文化財の一つである福井県桑野遺跡出土品（国指定、金津地区）は、その学術的価値に対して市民の知名度が足りません。
- イ. あわら市内には旧北陸道を始め多くの旧道があり、あわら市の歴史文化

に大きな影響を与えましたが、不明な部分が多くあります。

ウ．北潟地区、波松地区、吉崎地区は、北前船の船主や水夫を多く出しましたが、北前船に関する文化財の状況は明らかになっていません。

(2) 方針



ア．福井県桑野遺跡出土品の知名度向上のための事業を行います。

イ．あわら市内の旧道に関する把握調査を行います。

ウ．あわら市内の北前船に関する把握調査を行います。

(3) 保存・活用の事業

表 6－9 関連文化財群②に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ア	福井県桑野遺跡出土品魅力発信事業	継続	市										
	福井県桑野遺跡出土品の知名度向上のため、製作体験など、あわら市内外の来訪者が楽しく知ることができるイベントを開催します。また、SNSでの情報発信も実施します。												
イ	市内旧道把握事業	新規	市 専門家										
	あわら市内の旧道に係る文化財や歴史の把握調査を実施します。												
ウ	北前船関連事業	新規	市 専門家										
	北前船の歴史資料や関連文化財の把握調査を実施します。それらから、あわら市内の北前船の状況を明らかにし、日本遺産への追加認定を検討します。												

関連文化財群③ 多様な地形で営まれた生業

(1) 課題



ア．各地形で育まれた生業は、従事者の高齢化により衰退しており、滅失のおそれがあります。

(2) 方針

ア．継承者育成を図り、育成が難しい場合には記録を残します。

(3) 保存・活用の事業

表 6-10 関連文化財群③に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ア 1	生業に関する記録事業	新規	市 専門家										
	海や湖に関する生業について聞き取りを行い、アーカイブとしてまとめます。また、関連の文化財も収集し、地域生業の歴史を明らかにします。												
ア 2	生業継承者育成事業	継続	関係 団体										
	生業に関する子供向け体験を開催し、生業に興味を持ってもらい、継承者育成につなげます。												

関連文化財群④ 現在の田園風景の基礎となった荘園と国境の戦乱から守った 国衆の城館群

(1) 課題

- ア. 古代の桑原荘や中世の河口荘・坪江荘は、現在の田園風景の基礎を作った荘園ですが、その調査が不十分です。また、あわら市内ではそれらの荘園についてほとんど知られていないことが課題です。
- イ. 戦国時代の山城は愛好家が多く、あわら市内外から多くの人が訪れますが、あわら市内の山城は、見学を行うに十分な整備がなされていないことが課題です。

(2) 方針

- ア. 荘園と所縁の深い地域の把握調査を実施します。その成果を基に荘園を知ってもらうためのイベントを行います。
- イ. あわら市内の山城を見学できるよう整備を行います。

(3) 保存・活用の事業

表 6-11 関連文化財群④に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ア	荘園関連把握調査・公開事業	新規	市										
	荘園とゆかりの深い、本荘地区・新郷地区・伊井地区を中心に文化財の把握調査を行い、その成果をもとに市郷土資料館で企画展を開催し、知名度の向上を図ります。												
イ	山城整備事業	継続	関係 団体										
	観光資源の一つとして更に多く人が訪れるための活用や整備し、あわら市外の同様の山城とも連携を検討します。												

関連文化財群⑤ 地域を結び付ける信仰と祭り

(1) 課題

- ア. 吉崎御坊跡（国指定、吉崎地区）について、本堂跡は指定されていますが、歴史的に重要な多屋跡は未指定です。今後の保存に向けた取り組みが必要です。
- イ. 祭りは地区のつながりを保つ重要なものですが、市民に知られることなく休止したり衰退したりしているところが多くあるため、記録と情報発信が必要です。
- ウ. あわら市内の寺社にある信仰に関わる文化財の把握ができていません。

(2) 方針

- ア. 多屋跡について学術調査を行い、吉崎御坊跡の保存・活用を図ります。
- イ. あわら市内の祭りを記録し、市民へ向けた情報発信を行います。
- ウ. あわら市内の寺社の文化財把握に努めます。

(3) 保存・活用の事業

表 6-12 関連文化財群⑤に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ア	吉崎御坊跡学術調査事業	新規	市										
	多屋跡の歴史的 중요さを明らかにするために学術調査を実施し、調査内容を基に追加指定を目指します。			学術調査									
イ	地域の祭記録事業	新規	市 地域										
	祭りが完全に失われる前に記録を残し、デジタルアーカイブに保存し、公開します。												
ウ	地域信仰物記録事業	新規	市 専門家										
	第5章 第4節(1)①で挙げた、「各地区の未指定文化財把握調査」の際に、地区の寺社やお堂の調査を実施し、文化財としての信仰物を記録して後世に伝えます。												

関連文化財群⑥ 平地に開湯した温泉地「芦原温泉」

(1) 課題

ア. 温泉地区については『開湯芦原 100 年史』をはじめ、文化財や歴史を伝える刊行物がありますが、文化財として記録されたものが現在まで残っているか現況が確認できていません。

(2) 方針

ア. これまで確認された温泉地区内の文化財の現況調査を行います。

(3) 保存・活用の事業

表 6-13 関連文化財群⑥に対する事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	前期					後期				
				R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
ア	温泉地区文化財確認事業	新規	市										
	これまでに把握された文化財の現況確認調査を実施します。その上で残っている文化財が温泉街の活性化につながるよう検討します。												

第7章 文化財の防災・防犯

第1節 防災・防犯の現況と課題

近年、全国各地で大きな地震、大型の台風や線状降水帯に伴う集中豪雨などによる大規模な自然災害がたびたび発生し、文化財にも多大な被害が及んでいます。さらに、火災や文化財の盗難及び一部損壊などの人為的な災害も増えてきています。貴重な文化財を守り、後世に伝えていくためには、日頃からこうした災害発生に備えておく必要があります。

また、少子・高齢化が急速に進み、人口流出も相まって人口減少が加速しています。このことにより地区の消防団・自警団の弱体化や無住寺社が増加し、日常的な地域の監視が困難となっている文化財もあります。これらのことは防犯の大きな問題となっています。

(1) 災害に対する課題

- ①文化財の災害や盗難などの事態に備えて、現状を把握するための文化財のデータベース化が必要です。
- ②災害リスクを把握し、地域への周知するため、文化財ハザードマップの作成が必要です。また、災害発生時における文化財の救出の方法が理解されていないのが課題です。

(2) 防災・防犯に対する課題

- ①指定文化財について、財政的な理由から所有者による防災・防犯設備の設置が進んでいないことが課題です。
- ②地域の文化財に対する防災意識の低いことが課題です。
- ③日常的な地域の監視が困難な文化財があり、それらについて定期的な現況の確認を行う必要があります。

(3) 被災後の課題

- ①被災後の対応について現状では整理できていないため、今後、検討する必要があります。

第2節 防災・防犯及び災害時の方針

文化財の防災・防犯は、あわら市と文化財所有者及び市民が一体となり、被害を防止・減少させるための行動に努めることを基本方針とします。

基本方針は、平成 18 年（2006）に「あわら市地域防災計画」（令和 7 年（2025）3 月改訂）を策定しています。また、文化庁が定めた「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」と「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」（令和元年（2019）9 月）や福井県が策定した「福井県文化財保存活用大綱」（令和 2 年（2020）3 月）など、これらに準拠するものとします。

（1）災害に対する方針

- ①文化財のデータベースを作成し、万が一の事態に備えます。
- ②文化財ハザードマップ作成し、災害リスクを周知します。あわせて、災害発生時における文化財の救出方法等を記載した文化財災害対策等マニュアルを作成します。

（2）防災・防犯に対する方針

- ①指定文化財の防災・防犯対策について、行政は指導、助言をするとともに、防災・防犯設備を文化財所有者が設置を進められるよう、財政的支援を行います。
- ②「文化財防火デー」を中心に、消防機関と連携し、文化財所有者や市民らが参加する防災訓練を実施し、地域の文化財に対する防災意識を高めます。
- ③文化財の安全を確認するために、文化財の現況調査パトロールを実施します。







（3）被災後の方針

- ①被災した際の文化財レスキューを的確に実施するため、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターなどの外部支援を福井県に要請します。

第3節 防災・防犯に対する事業

第2節で示した方針に基づいた防災・防犯の事業は表6－1のとおりです。

表7－1 防災・防犯事業内容と期間

番号	事業名 事業内容	新規/ 継続	実施 主体	財源	前期					後期						
					R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17		
(1)	データベース作成事業	新規	市	市費												
①	災害や盗難でのき損や散逸に備えるため、市内文化財のデータベースを作成します。															
(1)	ハザードマップ作成事業	新規	市 地域	市費												
②	想定される災害を事前把握するため、文化財ハザードマップを作成します。															
(2)	防災・防犯設備整備事業	新規	市 地域	国費 県費 市費												
①	指定等文化財の建造物や収蔵施設の防災・防犯対策に一部費用の補助を行います。															
(2)	防御訓練実施事業	継続	市 地域	市費												
②	行政と地域が協力し、文化財防火デーに合わせて消防訓練を実施します。															
(2)	文化財パトロール事業	新規	市 地域 専門家	市費												
③	地域の文化財の安全を確認するため、文化財の現況調査を実施します。															
(3)	文化財レスキュー体制整備事業	新規	市	市費												
①	文化財災害対策等マニュアルを作成し、発災後のレスキュー体制を整備します。															

第4節 実施体制

嶺北消防組合との広域消防体制を維持しつつ、文化財所有者・管理団体と平時から防災対策に努めます。発災に際しては「あわら市地域防災計画」に基づき、主管部局の指示のもとに適切に対応します。

また、発災時の連絡体制や文化財避難などのレスキュー体制については、市郷土歴史資料館を中心に、今後作成する文化財災害等マニュアルにそって行動します。

第8章 文化財の保存・活用の推進体制

第1節 推進体制

現在、あわら市の文化財保護に関する業務は、教育委員会文化学習課、市郷土歴史資料館が主に担当しています。なお、あわら市の文化財の指定などに関しては、教育委員会の諮問機関であるあわら市文化財保護委員会が調査・審議の役割を担っています。また、必要に応じて、県や他自治体、大学などの研究機関の協力を得て調査事業を行っています。

市地域計画の推進にあたっては、全庁で理念・原則を共有し、関係各課が連携して、事業を推進していく必要があります。また、国、県などの関係部署や関係施設はもちろん、あわら市内の文化財所有者や関係団体及び市民などとの協力・連携が不可欠です。

計画実現のため、現状の推進体制を一層強化して、文化財の保存・活用に取り組みます。

表 8-1 文化財の保存・活用の体制

あわら市	
教育委員会	文化学習課【所管課】 市郷土歴史資料館【事務局】
・業務内容	文化財の調査、研究、保存、活用、資料館の運営、管理及び展示などに関すること
・職員 11 名	(うち専門職員 6 名：歴史資料専門 3 名、埋蔵文化財専門 3 名)
【庁内関係課】	
総務部	危機管理課
・業務内容	防犯・防災、防犯対策などに関すること
創造戦略部	政策広報課
・業務内容	総合振興計画、広域行政、デジタル施策推進、広報、シティプロモーションの推進などに関すること
経済産業部	観光振興課
・業務内容	観光宣伝及び観光事業の推進、広域観光、観光協会らとの連携、インバウンド推進、観光まちづくり推進などに関すること
土木部	建設課
・業務内容	道路・橋りょう・河川の改修、都市計画、開発行為、景観、土砂採取、建築確認などに関すること
教育委員会	教育総務課

<p>・業務内容 学校施設（小学校・中学校）の維持・管理、教育委員会などに関する こと</p> <p>【関係施設】</p> <p>金津創作の森美術館（所管：文化学習課）※指定管理者：（公財）金津創作の森財団 美術館アートコアでは多彩な展覧会を開催し、野外美術館では現代アート作品を常 設展示</p> <p>藤野巖九郎記念館（所管：観光振興課）※指定管理者：（一社）あわら市観光協会 あわら温泉湯のまち広場に移築された旧藤野家住宅主屋、鲁迅と師弟関係にあった 藤野巖九郎の医療器具や書簡などを展示</p> <p>越前加賀県境の館（所管：観光振興課）※指定管理者：越前加賀県境の館管理運営委員会 越前加賀宗教文化に関する吉崎御坊や周辺地域の歴史などを展示</p> <p>あわら市図書館（金津図書館・芦原図書館）（所管：文化学習課） 郷土史などの書籍を保存、貸出</p>
文化財防災センター
<p>独立行政法人 国立文化財機構文化財防災センター</p> <p>・全国の文化財の防災のための取り組みを行う。</p>
福井県
<p>【文化財関係部署】</p> <p>福井県教育庁生涯学習・文化財課</p> <p>福井県教育庁埋蔵文化財調査センター</p> <p>福井県交流文化部文化・スポーツ局文化課</p> <p>【関係施設】</p> <p>福井県立歴史博物館・若狭歴史博物館・一乗谷朝倉氏遺跡博物館など</p> <p>福井県立図書館・文書館</p> <p>【関係課】</p> <p>福井県三国土木事務所</p> <p>福井県エネルギー環境部自然環境課</p> <p>【防災・防犯組織】</p> <p>福井県嶺北消防組合 嶺北あわら消防署</p> <p>あわら警察署</p>
近隣自治体
坂井市、福井市、永平寺町、石川県加賀市など
あわら市の附属機関
あわら市文化財保存活用地域計画協議会（仮）

<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画に関わる事業の推進の助言、事業の効果の検証や評価、計画の見直し等に関する協議機関 ・委員 7名（うち学識経験者3名） <p>あわら市郷土歴史資料館運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土歴史資料館の運営に関する協議機関 ・委員 7名（うち学識経験者3名）
専門家
<p>教育・研究機関</p> <p>福井大学、福井工業大学、福井県立大学など</p>
<p>あわら市文化財保護委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の諮問に応じ、市文化財指定や文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査・審議し、教育委員会に建議する。 ・委員 7名（専門委員6名：建築学・考古学・古文書・天然記念物・民俗学・仏教美術各1名）
あわら市の関連団体
<p>公益財団法人 金津創作の森財団</p> <p>一般社団法人 あわら市観光協会</p> <p>あわら市商工会</p>
文化財保存・活用の関係団体
<p>あわら市観光ガイド協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわら市内の歴史遺産の紹介とガイド活動 <p>あわらの自然を愛する会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北潟地区・波松地区を中心とした植生の調査保護と自然観察会などの活動 <p>伊井の歴史を学ぶ会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊井地区の歴史文化を中心とした調査研究及び啓発活動 <p>金津まちなか創成会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金津市街を訪れた観光客への歴史、文化、産業などのガイド活動とPR（絵看板の設置）活動 <p>金津祭保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金津祭（市指定、金津地区）の運営及び保存や継承 <p>川口城址保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指中の板碑」（市指定、細呂木地区）と「川口城跡」（未指定、細呂木地区）の保存活動 <p>北潟地区創成会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北潟地区のガイドマップの製作、観光客へのガイド実施

<p>北潟民謡保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北潟古謡どっしやどっしや」（県指定、北潟地区）の保存や継承 <p>北潟歴史探訪の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北潟地区の歴史文化を中心とした調査研究活動 <p>劔岳地区振興協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劔岳地区を中心とした里山の整備と維持・管理などの活動 <p>古文書翻刻グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわら市内古文書の翻刻活動 <p>神宮寺城跡保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神宮寺城跡」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と、啓発活動（講演会、リーフレット製作）
文化財保存・活用の関係団体
<p>多賀谷左近三経公奉賛会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多賀谷左近の墓」（市指定、細呂木地区）、「多賀谷左近三経石廟 附供養五輪塔」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と多賀谷左近三経公の啓発活動（講演会、出版） <p>たたら製鉄遺跡保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「細呂木製鉄遺跡」（市指定、細呂木地区）の保存や整備と古代製鉄体験会の開催、啓発活動（リーフレット製作） <p>細呂木地区創成会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細呂木地区の歴史遺産への案内板設置、ガイドマップの製作、観光客へのガイド活動 <p>吉崎ガイドクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吉崎御坊跡」（国指定、吉崎地区）及び周辺の歴史遺産のガイド活動 <p>蓮如の里よしざき創成会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吉崎御坊跡」（国指定、吉崎地区）の保存と史跡のガイド
地域
<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（期待される）活動内容 文化財の保存・活用への協力および連携
<p>文化財所有者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（期待される）活動内容 文化財の保存・活用への協力および連携

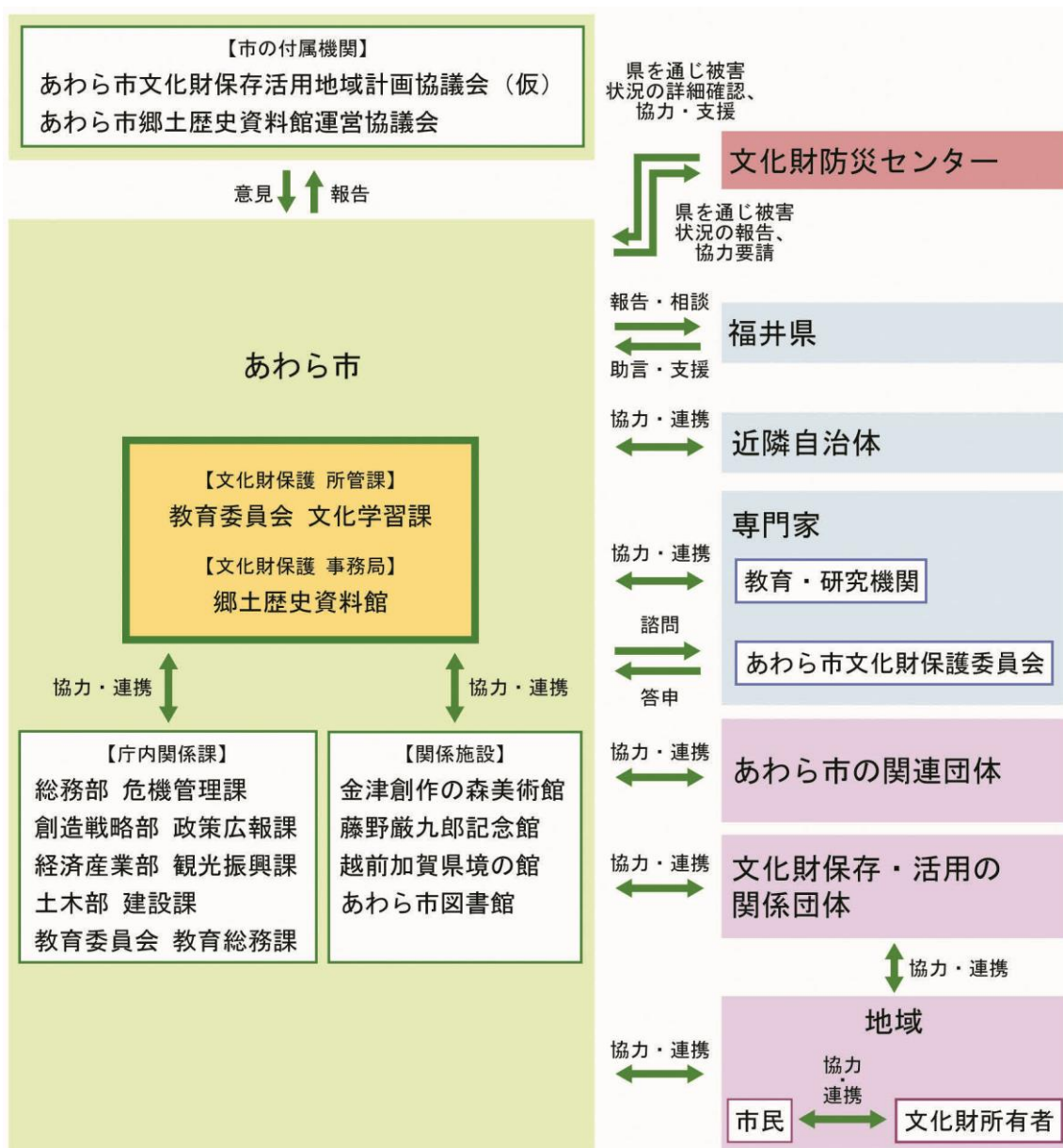


図 8-1 文化財の保存・活用の推進体制

第 2 節 計画の進行管理

第 1 章 第 3 節に記載したように、市地域計画の計画期間は令和 8 年（2026）度から令和 17 年（2035）度までの 10 年間に設定しています。そして、令和 8 年（2026）度から令和 12 年（2030）度までを前期、令和 13 年（2031）度から令和 17 年（2035）度までを後期とし、市地域計画に記載した事業を適切に進行管理します。

文化財を取り巻く環境の変化などにより、中間となる令和 12 年（2030）度か

ら令和 13 年（2031）度に必要な応じて計画全体の見直しを実施します。また、同時期の第 3 次あわら市総合振興計画の後期計画改訂にも反映します。

市地域計画の推進と進行管理及び自己評価は、事務局の市郷土歴史資料館が担います。事務局だけでは進捗管理の難しい事業については関係各課、関係機関、関係団体等への確認により市郷土歴史資料館が個別に進捗管理を行います。

これらの結果は、令和 8 年（2026）度以降に設置予定のあわら市文化財保存活用地域計画協議会（仮）に定期的に報告し意見を求めます。